

# 鳴上遺跡群 23

上  
郡

1 9 9 9

高槻市教育委員会

# 鳴上遺跡群 23



a. 岐阜郡街跡上空から津之江南遺跡を望む



b. 津之江南遺跡 98-1地区 全景



a. 津之江南遺跡（98-1 地区） 全景（南側から）



b. 津之江南遺跡 建物 1（北側から）

## は　し　が　き

平成10年度は、史跡今城塚古墳におきまして昨年度に引き続き規模確認調査を実施するとともに、高槻城跡では日本最古のキリストン墓を発見するなど数多くの重要な調査をおこないました。

史跡今城塚古墳では古墳の状況と中世山城築城時の改変についてあらたな知見を得ることができました。今後、古墳の整備・公開にむけてその成果を活用していきたいと思っております。

嶋上郡衙跡ではおもに周辺部の調査が進み、郡衙成立以前の状況が徐々にではありますが、あきらかになりつつあります。

一方、嶋上郡衙跡の南方に広がる津之江南遺跡におきましては、律令期の大形建物を調査いたしました。この建物は規模もさることながら、市内でも最大級の柱を用いたもので、官衙に関連する遺跡としてその重要性がよりたかまつてまいりました。

また、「青龍三年」銘鏡をはじめとする5面の銅鏡が出土し、全国から注目されました安満宮山古墳の整備が完了し、発見当時の埋葬状況とともに築造時の姿そのままに再現いたしました。より多くの方々に訪れていただき、古代の高槻に想いを馳せていただきたいと存じます。

最後に、本書をまとめるにあたり、ご教示やご協力いただいた多くの方々に、心から感謝申し上げます。

平成11年3月31日

高槻市立埋蔵文化財調査センター

所長　富成哲也

## 例　　言

1. 本書は、高槻市教育委員会が平成10年度国庫補助事業として計画、実施した高槻市所在の史跡・嶋上郡衙跡附寺跡周辺部及び市内遺跡の発掘調査事業（総額8,000,000円）の概要報告書である。
2. 事業は、高槻市教育委員会の直営事業として実施し、大阪府教育委員会の助力を得て、平成10年5月11日に着手、平成11年3月31日に終了した。

3. 調査は、高槻市立埋蔵文化財調査センター（所長 富成哲也、次長 森田克行）がおこなった。本書の執筆・図面作成・製図は、橋本久和、鐘ヶ江一朗、宮崎康雄、高橋公一、浅井まりも、木曾 広、難波紀子がおこない、分担は文末に記した。遺構・遺物の写真撮影は清水良真が担当した。遺物整理については以下の各氏から援助をうけた。厚く感謝する。

井上明子・木村さつき・白銀良子・高橋美喜子・梅靖代・西岡和江・松本信子

(順不同・敬称略)

4. 調査の実施にあたり、以下に掲げる土地所有者の方々をはじめ、関係機関各位のご協力をいただいた。ここに記して感謝いたします。

山本和男・岡本昭子・岡本利花・横山正毅・宮垣圭一・宮垣雪恵・長岡勇治・平野和子・  
表谷浩一・瀧谷清文・安井合織(株)・鈴木力・日高保・水上敏・高畠廣・高畠和子・  
喜島孝博・大上武・今井秀子・下村治郎・土田光恵・高木膳吉・大貫智康・奥田春雄・  
武知辰也・今枝吾朗・奥村治男・藤井紘・田北圭一・前川佳司・山本典正・荒木尚実・  
奥野喜久・池田敬子

(順不同・敬称略)

## 目 次

I	鷦上郡衙跡	1
II	土室遺跡	9
III	中城遺跡	10
IV	水室塚古墳	15
V	郡家今城遺跡	16
VI	郡家車塚古墳	21
VII	今城塚古墳	22
VIII	津之江南遺跡	23
IX	宮之川原遺跡	29
X	芥川遺跡	31
XI	高楓城跡	32
XII	神内遺跡	38
XIII	今城塚古墳規模確認調査	39
XIV	ま と め	41

No	遺 跡 名 (地区)	調 査 地	面積 (m <sup>2</sup> )	申 請 者
1	鷦上郡衙跡(21-D)	郡家本町521-1, 522-1	1343.55	安井合織 佛和・利花 岡本昭子・一
2	" (28-C・G)	清福寺町839-840+1484	76.15	
3	" (28-L)	清福寺町829-5	156.31	
4	" (48-B)	川西町一丁目956-12	53.46	
5	" (54-E)	郡家新町350-7	104.59	
6	" (74-C)	郡家新町156-4	90.54	
7	" (74-G)	郡家新町156-37	54.10	長谷川勇和治子一
8	" (95-E)	今城町187-17	48.23	平野谷和浩
9	土室遺跡(98-1)	上土室六丁目131-49	91.26	瀧谷清文
10	中城遺跡(98-1)	昭和台町二丁目135	305.03	水嶋廣和・敏力子
11	" (98-2)	昭和台町二丁目128	225.30	保博
12	" (98-3)	昭和台町二丁目156-2	163.30	
13	" (98-4)	昭和台町二丁目122-2	133.47	
14	" (98-5)	昭和台町二丁目122-1	122.47	喜孝
15	水室塚古墳(98-1)	水室町二丁目587-6	81.14	大上武
16	郡家今城遺跡(98-1)	郡家新町141-1	149.00	土田光勝智
17	" (98-2)	水室町一丁目781-21	116.14	恵吉康
18	" (98-3)	水室町一丁目769-13	121.87	
19	郡家車塚古墳(98-1)	岡本町790	221.00	下村治郎
20	今城塚古墳(98-1)	郡家新町659-2	530.00	今井秀子
21	津之江南遺跡(98-1)	津之江北町256	300.00	奥田春雄
22	宮之川原遺跡(98-1)	宮之川原五丁目505-7	90.78	今武枝知吾辰朗也
23	" (98-2)	宮之川原五丁目509-4・5	132.50	
24	芥川遺跡(98-1)	真上町一丁目60-1・5	492.31	奥村治男
25	高楓城跡(98-1)	野見町1244-1	225.30	藤井喜久正
26	" (98-2)	出丸町1233-4・6	143.53	野本喜典
27	" (98-3)	出丸町1247	121.23	山主向
28	" (98-4)	出丸町992-53	102.47	田中実司
29	" (98-5)	出丸町992-52	101.10	荒川向佳
30	" (98-6)	出丸町992-51	100.01	
31	神内遺跡(98-1)	上牧北駅前町1218-136	129.50	池田敬子



## I 島上郡衙跡

### 1. 島上郡衙跡（21-D 地区）の調査

調査地は高槻市郡家本町521-1・522-

2番地にあたり、小字は「雲り」である。

当該地西側には南北にのびる丘陵がせまり、  
遺跡の北西縁部にあたる。周辺では弥生時  
代後期終末の密集した土墳墓群や流路跡、

5世紀中頃の古墳群と6世紀の群集土墳墓  
がみつかっており、一帯は長期にわたって  
墓域とされていたことが判明している。

調査は重機で盛土を除去したのち、人力  
で掘削・精査した。基本的な層序は、盛土

（1.1m）、耕作土（0.1m）、床土（0.1m）、淡黃灰色砂質土（0.5m）、黃灰色砂〔地山〕である。遺  
構・遺物は検出されず、当該地まで弥生時代の墓地は及んでいないことが判明した。（宮崎）

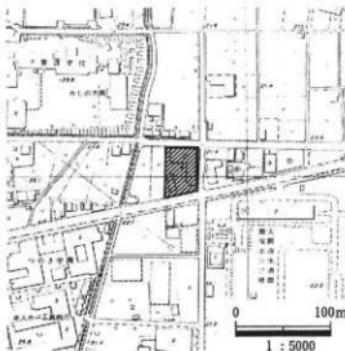


図1 島上郡衙跡（21-D地区）調査位置図

▼ ▼ ▼

— 21.0m —

盛 土

耕 作 土  
床 土

淡黃灰色砂質土

黄灰色砂

0 1 m  
1 : 20

図2 島上郡衙跡（21-D地区）土層模式図

## 2. 鳴上郡衙跡（28-C・G地区）の調査

調査地は、高槻市清福寺町839・840・1484

番地にあたり、小字名は「福ノ内」と称する。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設工事が計画されたため発掘調査を実施した。

今回の調査地は、鳴上郡衙跡の東北部にあたり、これまでの調査では、弥生時代から古墳時代にかけての遺構・遺物が検出されている。

調査は届出地中央部に調査区を設定し、重機で盛土を除去したのち、人力で掘削、精査をおこなった。層序は盛土(0.1m)、耕作土(0.1m)、床土(0.1m)、黄褐色土(0.4m)、褐色土(0.3m)、黄灰色土〔地山〕である。黄褐色土・褐色土には須恵器や土師器、黒色土器などが含まれていた。地山面では、古墳時代とみられる直徑0.3m～0.4mの円形柱穴を3個検出した。調査区が狭小であったが鳴上郡衙跡北東部において、弥生時代から古墳時代にかけての遺構の広がりを確認することができた。

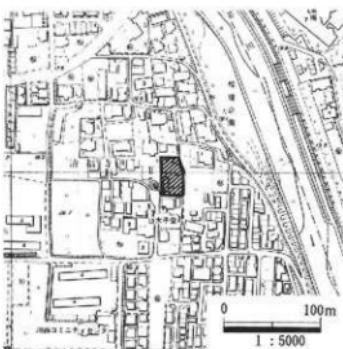


図3 鳴上郡衙跡（28-C・D地区）調査位置図

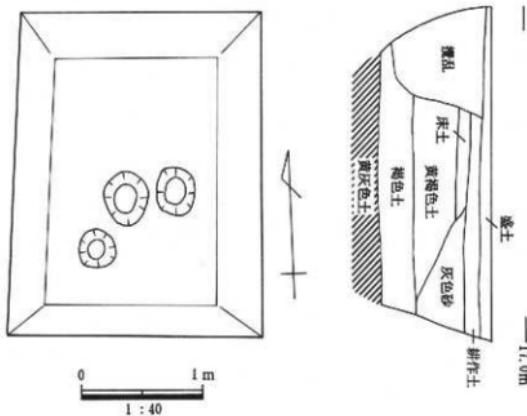
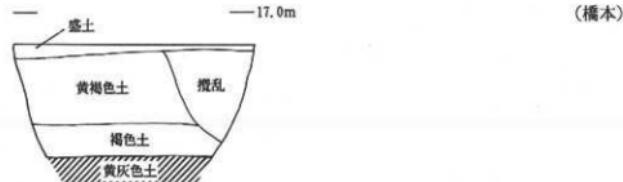


図4 鳴上郡衙跡（28-C・D地区）平面図・土層図

### 3. 島上郡衙跡（28-L 地区）の調査

調査地は、高槻市清福寺町829-5 番地にあたり、小字名は「川西北浦」と称する。

現状は宅地である。このたび、個人住宅建設工事が計画されたため発掘調査を実施した。

今回の調査地は、島上郡衙跡の東北部にあたる。これまでの調査では、一部に弥生時代から古墳時代にかけての遺構・遺物が検出されているが、芥川の堤防に近く比較的遺構の希薄な地域である。

調査は届出地中央部に調査区を設定し、重機で盛土を除去したのち、人力で掘削・精査をおこなった。層序は盛土(0.6m)、耕作土(0.2m)、灰褐色粘土(0.15m)、黄灰色土〔地山〕で遺構・遺物はまったく検出されなかった。  
(橋本)



図5 島上郡衙跡（28-L地区）調査位置図

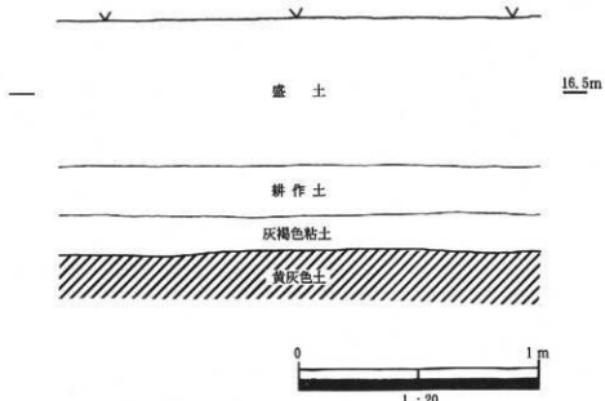


図6 島上郡衙跡（28-L地区）土層模式図

#### 4. 島上郡衙跡（48-B地区）の調査

高槻市川西町1丁目956-12番地にあたり、小字名は「川西北浦」と称する。現状は宅地である。このたび、個人住宅新築工事が計画されたため事前に調査を実施した。

当該地は川西小学校東側の住宅地で、史跡指定地の東側に位置する。周辺の調査では弥生時代から古墳時代にかけての方形周溝墓や竪穴住居をはじめ、数多くの遺構・遺物が検出されている。

調査は届出地がすでに厚い盛土に覆われていることから重機で除去した後、人力で精査して層序の観察と遺構・遺物の確認を実施した。

層序は盛土(0.7m)、耕作土(0.2m)、床土(0.1m)、灰青褐色土(0.2m)、暗褐色粘土(0.2m)、暗黄褐色土〔地山〕であった。地山面の標高は13.4mをはかる。

今回の調査では、明確な遺構・遺物は検出しなかった。また、砂や礫の堆積など芥川の氾濫を示すような状況もみられなかった。  
(木曾)



図7 島上郡衙跡(48-B地区)調査位置図

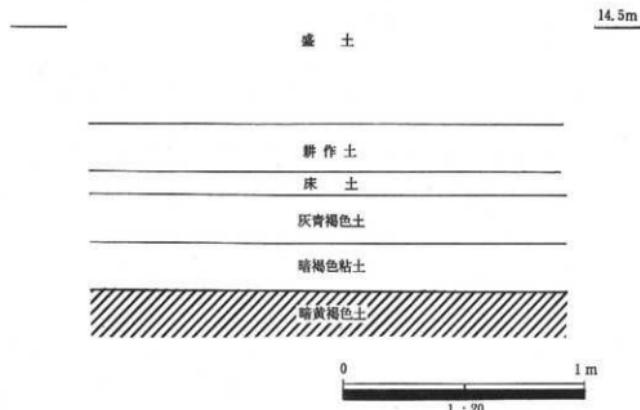


図8 島上郡衙跡(48-B地区)土層模式図

## 5. 嶋上郡衙跡（54-E 地区）の調査

高槻市郡家新町350-7番地にあたり、小字名は「林田」である。調査地は嶋上郡衙正倉の西方にあたり、正倉と西側隣接地で検出した8世紀の集落との間の、まったく遺構が検出されてこなかった地域である。

今回の調査は個人住宅の建替えに先立つものである。届出地内を重機によって表土・盛土等を除去した後、人力で精査をおこない遺構・遺物の検出につとめた。

層序は表土・盛土(0.5m)、耕作土(0.2m)、整地土(0.2m)、暗灰色粘質土(0.2m)、暗灰色砂(0.05m)、黄灰色粘土〔地山〕であった。

調査の結果、遺構・遺物はまったく検出できなかった。これは、周辺部の調査結果と同様に正倉西側では無遺構となる空閑地がひろがっていたためであろう。  
(宮崎)



図9 嶋上郡衙跡 (54-E 地区) 調査位置図

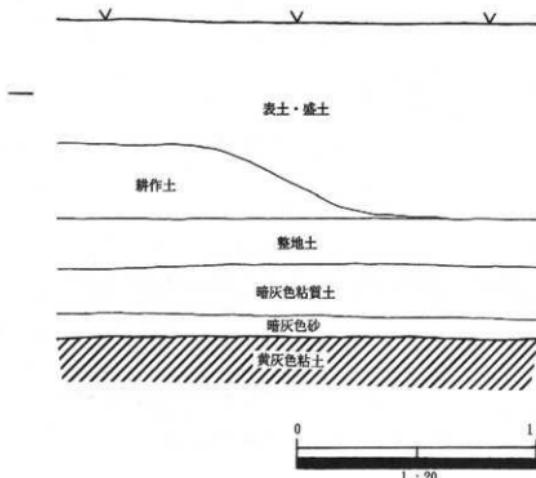


図10 嶋上郡衙跡 (54-E 地区) 土層模式図

#### 6. 嶋上郡衙跡（74-C地区）の調査

高槻市郡家新町156-4番地にあたり、小字名は「東藤ヶ本」である。周辺でおこなわれた調査では、弥生時代終末期の方形周溝墓や6世紀前半頃の円墳や方墳、土壙墓などが検出されており、一帯が墓域であったことが判明している。また、東方に位置する川西4号墳からは家・甲冑・盾などの形象埴輪や船のヘラ記号を描いた円筒埴輪もみつかり、これらは新池埴輪窯より搬入されたことが明らかになっている。

今回の調査は個人住宅の建て替えに先だって実施したものである。届出地内を重機によって盛土等を除去したのち、人力で地山面まで掘り下げて遺構・遺物の検出作業および層序の観察をおこなった。

層序は、盛土(0.5m)、耕作土(0.2m)、暗青灰色粘質土〔整地土〕(0.1m)、黄褐色粘土〔地山〕であり、いずれの層からも遺構・遺物は検出されなかった。  
（宮崎）



図11 嶋上郡衙跡 (74-C地区) 調査位置図

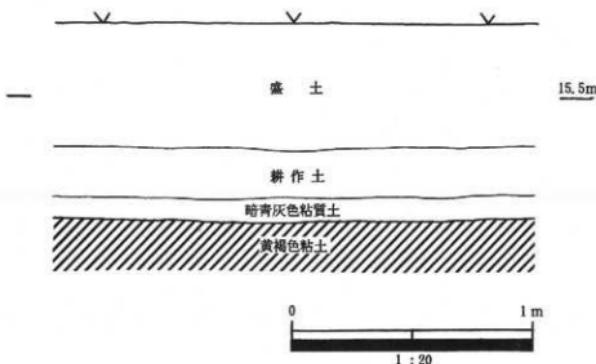


図12 嶋上郡衙跡 (74-C地区) 土層模式図

## 7. 嶋上郡衙跡（74-G地区）の調査

調査地は、高槻市郡家新町156-37番地にあたり、小字名は「東藤ヶ本」と称する。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設工事が計画されたため発掘調査を実施した。今回の調査地は嶋上郡衙跡の西南部にあたる。これまでの調査では、奈良時代の建物跡の一部等が検出されているが、比較的遺構の希薄な地域である。

調査は届出地中央部に調査区を設定し、重機で盛土を除去したのち、人力で掘削・

精査をおこなった。層序は盛土(0.5m)、耕作土(0.2m)、灰色砂質土(0.2m)、黄褐色砂質土(地山)で、遺構・遺物はまったく検出されなかった。  
（橋本）



図13 嶋上郡衙跡（74-G地区）調査位置図

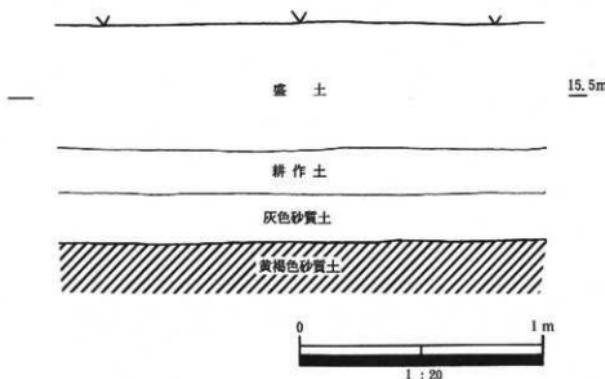


図14 嶋上郡衙跡（74-G地区）土層模式図

### 8. 島上郡衙跡（95-E 地区）の調査

調査地は、高槻市今城町187-17番地にあたり、小字名は「中久保」と称する。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設工事が計画されたため発掘調査を実施した。今回の調査地は、島上郡衙跡の西南部にあたり、これまでの調査では遺構の希薄な地域である。

調査は届出地中央部に調査区を設定し、重機で盛土を除去したのち、人力で掘削・精査をおこなった。層序は盛土(1.2m)、耕作土(0.2m)、床土(0.15m)、青灰色砂礫土(地山)で、遺構・遺物はまったく検出されなかつた。



図15 島上郡衙跡 (95-E 地区) 調査位置図

(橋本)



15.0m

盛 土

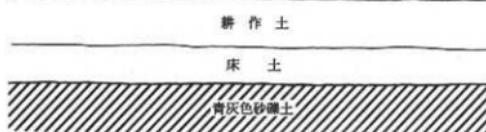


図16 島上郡衙跡 (95-E 地区) 土層模式図

## II 土室遺跡

### 9. 土室遺跡（98-1）の調査

調査地は高槻市上土室六丁目131-49番地にあたり、大字は「宿名」、小字「石コカシ」と称する。土室遺跡の南西部に位置し、昭和63年度に奈良～平安時代の建物群を検出した調査地点から南へ50m隔たっている。

現状は宅地であり、今回個人住宅建築工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。

基本的層序は、盛土(1.4m)、耕作土(0.15m)、床土(0.05m)、黄灰色ないし淡灰色粗砂混じり砂質粘土(0.25m)、黄灰色砂質土(0.3m)、黄褐色砂質粘土(0.3m)となり、地山は淡青灰色粘土である。地山面で深さ0.2mの暗灰色粘土が堆積する落ち込みを1か所検出したが、明確に遺構と判断されるものではなく、遺物もまったく出土しなかった。



図17 土室遺跡（98-1）調査位置図

(鐘ヶ江)

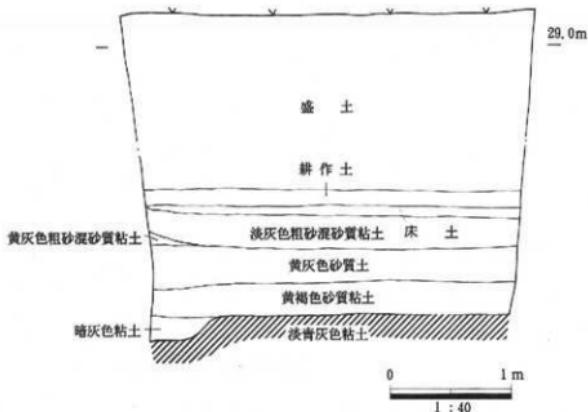


図18 土室遺跡（98-1）土層模式図

### III 中城遺跡

#### 10. 中城遺跡（98-1）の調査

中城遺跡は弥生時代及び中世の遺跡で、東側に隣接する富田遺跡と同じく富田疊層の端部に立地する。遺跡の範囲は径200mと推定され、標高は15~18mを測る。近年調査件数が増加しているが、いずれも小規模な開発に伴うものであるため、明確な遺構を検出するには至っていない。

今回の調査は、個人住宅建設工事に伴うものである。調査地は高槻市昭和台町二丁目135番地にあたり、小字名は「安房」と称する。届出地の面積が狭小なことから中央部にトレーニングを設け、層序の観察と遺構・遺物の確認をおこなった。

層序は盛土(0.4m)、灰褐色砂質土(0.3m)、暗褐色砂質土(0.1m)、黄褐色粘土〔地山〕であった。地山面の標高は14.2mを測る。遺構・遺物はまったく認めることができなかった。

(木曾)



図19 中城遺跡（98-1）調査位置図

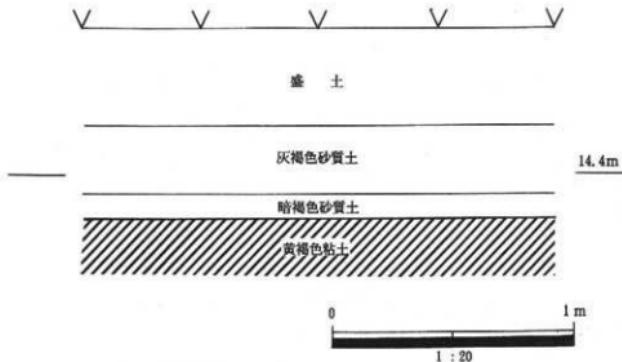


図20 中城遺跡（98-1）土層模式図

## 11. 中城遺跡（98-2）の調査

調査地は高槻市昭和台町2丁目128番地にあたり、小字名は「安房」と称する。現状は宅地である。

今回は、個人住宅建設工事に先立って発掘調査を実施し、層序の観察と遺構・遺物の確認をおこなった。

層序は、盛土(0.3m)、明黄褐色砂礫土(0.3m)、黄灰褐色粘土〔地山〕となり、遺構・遺物は確認できなかった。当該地は北側からのびる富田台地上に位置しており、宅地造成の際にかなり地盤が削平されたものとみられる。

(木曾)



図21 中城遺跡（98-2）調査位置図

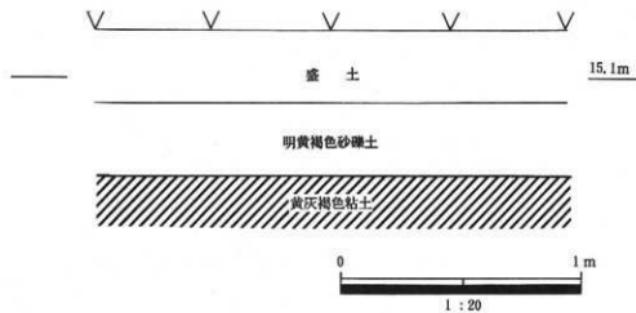


図22 中城遺跡（98-2）土層模式図

## 12. 中城遺跡（98-3）の調査

今回の調査地は高槻市昭和台町二丁目156-2番地で慶瑞寺の北側の住宅地にあたる。小字名は「慶瑞寺」と称し、現状は宅地である。調査は、届出地の面積が狹少なことから、層序の観察と遺構・遺物の確認をおこなった。

層序は、盛土(0.25m)、暗褐色土(0.2m)、黄褐色疊土〔地山〕であり、地山面の標高は14.6mをはかる。遺構・遺物は検出されなかった。一帯は中世の集落跡と考えられるものの調査範囲が狹少なためか、詳細は明らかにできなかった。宅地造成の際にかなり地盤が削平されたものとみられる。



図23 中城遺跡（98-3）調査位置図

(木曾)

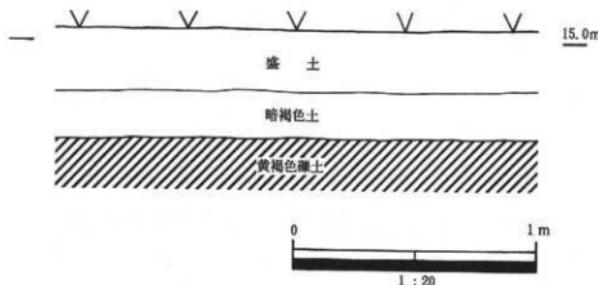


図24 中城遺跡（98-3）土層模式図

### 13. 中城遺跡（98-4）の調査

今回の調査地は高槻市昭和台町二丁目122-2番地にあたり、小字名は「安房」と称する。現状は宅地である。

個人住宅建設工事に先立って発掘調査を実施した。調査は層序の観察と遺構・遺物の確認をおこなった。

盛土(0.2m)を除去すると、すぐに暗黄褐色粘土の地山となり、包含層および遺構等は確認できなかった。地山面の標高は15.3mをはかる。当該地は、宅地造成の際にかなり地盤が削平されたものとみられる。（木曾）



図25 中城遺跡（98-4）調査位置図

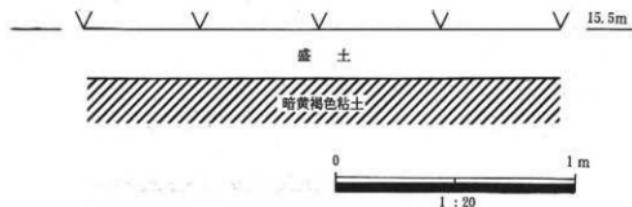


図26 中城遺跡（98-4）土層模式図

#### 14. 中城遺跡（98-5）の調査

今回の調査地は高槻市昭和台町二丁目122-1番地にあたり、小字名は「安房」と称する。

現状は宅地である。個人住宅建設工事に先立って発掘調査を実施した。調査は層序の観察と遺構・遺物の確認をおこなった。

層序は盛土(0.2m)、暗黄褐色粘土[地山]となり、遺構・遺物等は確認できなかった。地山面の標高は15.3mをはかる。当該地は、宅地造成の際にかなり地盤が削平されたものとみられる。

(木曾)



図27 中城遺跡（98-5）調査位置図

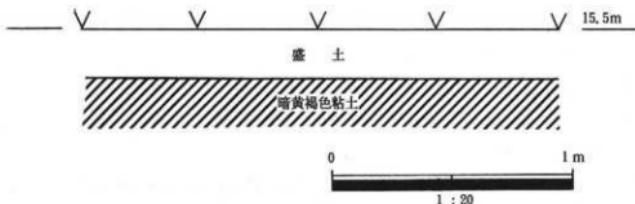


図28 中城遺跡（98-5）土層模式図

## IV 水室塚古墳

### 15. 水室塚古墳（98-1）の調査

調査地は高槻市水室町二丁目587-6番地にあたり、大字「水室」、小字は「塚後」である。現状は宅地である。今回の調査は個人住宅建設に先立って実施したものである。まず届出地の中央に調査区を設定し、重機で盛土等を除去した後人力で排土作業をおこない、遺構・遺物の検出につとめた。

基本的な層序は、盛土(0.3m)、耕作土(0.15m)、床土(0.05m)、黄灰色土(0.2m)、淡灰褐色土(0.3m)、暗黄褐色粘質土〔地山〕である。地山面の標高は約27.5mをはかり、西から東にむかってゆるやかに下降している。地山直上の淡灰褐色土は自然堆積土とみられるが、遺物は含まれていない。

調査の結果、遺構・遺物はまったく検出されなかった。水室塚古墳は当該地まで及んでいないとかんがえられる。

(宮崎)



図29 水室塚古墳（98-1）調査位置図

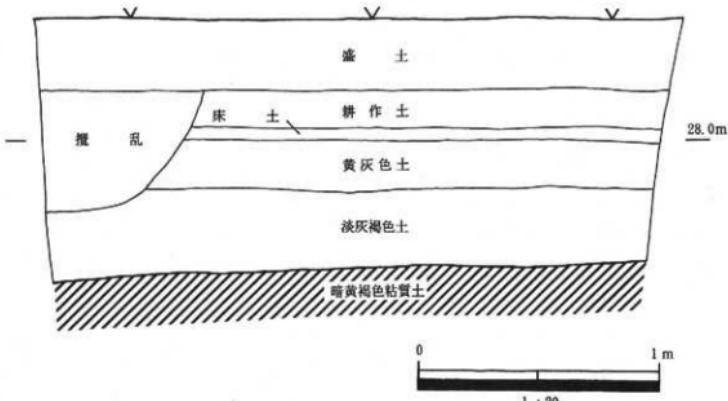


図30 水室塚古墳（98-1）土層模式図

## V 郡家今城遺跡

16. 郡家今城遺跡（98—1）の調査

調査地は高槻市郡家新町141-1 番地にあたり、小字名は「藤ヶ本」である。現状は畠地である。個人住宅建設に先立って発掘調査を実施した。

当該地は遺跡の北東に位置し、遺跡の縁辺部に近く遺構が希薄な地域とみられていたが、平成2年に実施した東側隣接地の調査では、9世紀代の掘立柱建物4棟等を検出しており（以下、90-3次調査と表記）、「20. 郡家今城遺跡（90-3）の調査」

## 「20. 郡家今城遺跡（90-3）の調査」

『鳴上郡衙跡他関連遺跡発掘調査概要・15』(高槻市教育委員会編)、建物群がこの周辺に分布していることが明らかとなった。

調査の結果、これらと一連とみられる掘立柱建物等の遺構を検出した。

基本的な層序は耕作土0.3m、床土0.1mで、地山である黄灰色粘土の遺構面となり、遺物包含層は認められなかった。

### 遺構・遺物（図版第3・4、図32）

検出した遺構は、掘立柱建物・土坑・小溝等である。なお記述にあたり、これらの遺構は、東接する90-3次調査の遺構と一連の通し番号を付することにする。

掘立柱建物は2棟検出した。

建物5は、調査区北寄りで検出した。桁行3間(3.36m)、梁行2間(2.94m)の東西棟で、南柱列の掘形一個を欠いている。建物の主軸の方位は磁北に対し、N-16°30' - Eである。柱間寸法は、北柱列で1.12m等間、南柱列で東一間が1.12m、西一間が東一間の倍数である2.24mと桁行では規則的であるのに対し、梁行では、東柱列北一間が1.26m、南一間が1.68m、西柱列北一間が1.54m、南一間が1.4mとややばらつく。掘形は、一辺0.5~0.4mの方形で、深さ0.3~0.4mを測る。

建物6は、調査区中央東寄りで、西柱列と南柱列とみられる柱穴を検出した。建物の東半部は調査区外となるが、90-3次調査では、この建物に該当する柱穴はみられてないので、桁行2間(3.64m)、梁行2間(推定2.8m)の南北棟と推定できる。建物の主軸の方位は、N-18°30'-Eである。柱間寸法は、桁行の西柱列北一間は1.68m、南一間は1.96mを測り、梁



図31 那家古城遺跡(98-1) 調査位置図

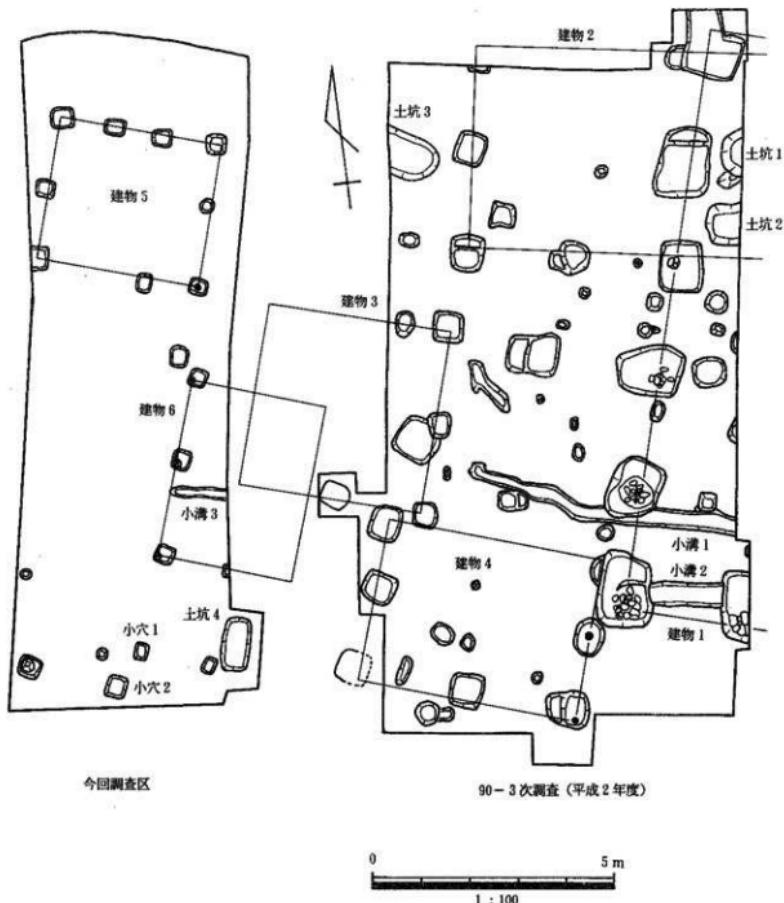


図32 郡家今城遺跡（98-1）平面図

行の一間は1.4mである。掘形は一辺0.4~0.35m、深さ0.2mの方形を呈する。

土坑4は調査区東南隅で検出し、調査区を一部拡張した。長辺1.1m、短辺0.4mの隅丸長方形で、深さ0.4mの断面逆台形を呈する土坑である。

小溝3は建物6に重なって検出した。幅0.2m、深さ0.05mの東西溝で、約1.2mを確認している。位置や形状から、90-3次調査の小溝1に連なるとみられる。

その他、調査区南端では小穴を検出している。これらは規模や形状から掘立柱建物の柱穴とみられるが、本調査区内では建物としてまとまらず、建物の大半は南あるいは西側に広がっていると推定できる。

遺物としては須恵器・土師器等があるが、量は少なく、ほとんどが細片であり、復元できるものは皆無である。おおむね9世紀頃の年代が与えられる。

また製塩土器が、小穴1から5点出土している。いずれも小片で胎土に径1mm程度の砂粒を含み、外面は粗面を残し、内面は平滑に仕上げるものである。

そのほか、小穴2からサヌカイトの剥片が1点、出土している。

## 小 結

今回の調査で掘立柱建物2棟を検出し、90-3次調査と合わせて合計6棟の建物を確認できることになり、これらを含め、一定の整理を行う。

まず、90-3次調査で明確でなかった建物3の規模がほぼ確定した。建物3は90-3次調査で東半部を検出したが、今回の調査ではこれに連なる掘形が検出できなかったことから、南北2間(3.8m)、東西2間(推定3.8m)と推定することができる。そして、同様な状況で規模を推定した建物6と、建物3は位置的に重複することになり、この2棟は同時に存在することは不可能と考えられる。

次に、建物の主軸の方位をみると、建物5は磁北に対し16°30'東に振っており、16°の値をしめす建物3と非常に近い。また、建物6は18°30'、建物4は18°でこれらも近似値を示す。これらのことから、建物5と建物3、建物6と建物4はそれぞれ同時に存在したとみられる。

以上を90-3次調査で想定した建物の変遷に加えて整理すると、建物2→建物4・6→建物1・3・5となる。そして、今回の調査では主軸の方位による年代観を変更する材料は得られていないことから、建物2は9世紀前半から中頃、これ以外は9世紀後半頃とみることができる。

今回の調査により、掘立柱建物がある程度の広がりをもって遺存していることがあらためて認識できた。今後の周辺の調査により、建物群の配置等に新たな資料が得られることを期待する。

(高橋)

## 17. 郡家今城遺跡（98-2）の調査

調査地は、高槻市氷室町一丁目781-21番地にあたり、小字名は「下河原」と称する。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設工事が計画されたため発掘調査を実施した。今回の調査地は、郡家今城遺跡の西南部にあたるが、これまでの東側の調査では、奈良時代の遺構が数多く検出されている。

調査は届出地中央部に調査区を設定し、重機で盛土を除去したのち、人力で掘削・精査をおこなった。層序は盛土（0.9m）、耕作土（0.2m）、黄灰色砂（0.2m）、黄灰色粘土〔地山〕で、遺構・遺物はまったく検出されなかった。

調査地が女瀬川左岸の堤防近くであり、地山上面に黄灰色砂が堆積するのみで、遺物包含層も確認できなかった。周辺の個人住宅建設工事でも遺構はほとんど検出されておらず、もともと遺構の希薄な地域であったとみられる。

（橋本）



図33 郡家今城遺跡(98-2) 調査位置図



盛 土

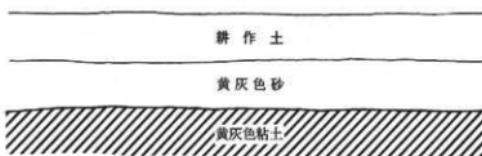


図34 郡家今城遺跡(98-2) 土層模式図

### 18. 郡家今城遺跡（98-3）の調査

調査地は高槻市氷室町一丁目769-13番地にあたり、小字は「下河原」である。

現状は宅地である。今回の調査は個人住宅建設工事に先立つもので、近隣調査区では旧石器および奈良・平安時代の遺構・遺物を検出している。

調査は届出地の中央に調査区を設定し、重機で盛土を除去したのち、人力で掘削・精査及び層序の観察をおこない遺構・遺物の検出に努めた。層序は盛土(1.0m)、耕作土(0.5m)、黄灰色土（地山）である。地山は北西側から南東側へむかって緩やかに下降していた。

今回の調査では遺構や遺物を検出することはできなかったものの、比較的良好な状態の地山を確認している。当調査区では未検出であるものの、周辺に何らかの遺構がひろがる可能性がある。

(宮崎)



図35 郡家今城遺跡（98-3）調査位置図

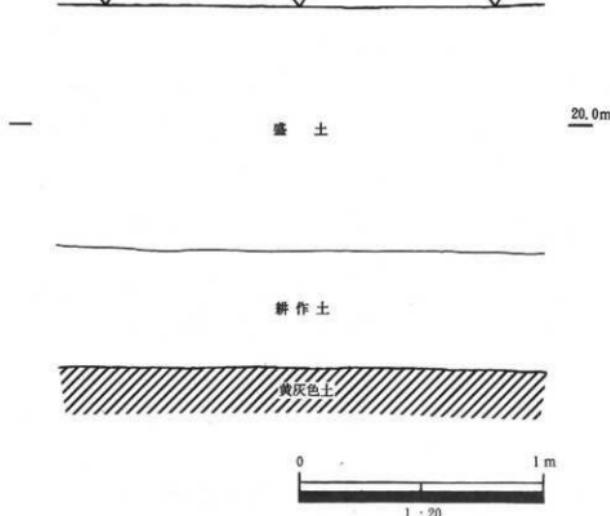


図36 郡家今城遺跡（98-3）土層模式図

## VI 郡家車塚古墳

### 19. 郡家車塚古墳（98-1）の調査

調査地は高根市岡本町790番地にあたり、小字名は「西野々」と称する。郡家車塚古墳のすぐ東側に接しており、現状は畠地である。今回個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。

郡家車塚古墳についてはこれまで3次の調査がなされており、古墳の規模・埋葬主体の状況が一定明らかにされた。その成果から、今回、届出地の中央に調査坑を設定して重機で排土後、人力で掘削して層序の把握及び遺構・遺物の精査に努めた。基本層序は、耕土(0.2m)、整地土(0.5m)、黄褐色～灰褐色系の砂質土と粘土、砂礫の互層(1.8m)、青灰色人頭大礫混じり砂礫0.2m、暗灰色～青灰色粘土〔地山〕であり、地山面の標高は32.3mをはかる。断面観察では北から南にむかって土石流が幾度も流入した状況が認められ、また周濠堆積土及び埴輪片等はまったく検出されなかった。

郡家車塚古墳は、4世紀末ごろ築造と推定される西向きの前方後円墳で、周濠を有し葺石・埴輪片が確認されている。今回の調査ではかかる外部施設はまったく検出されず、当該地は土石流が幾度も流入した谷地形にあたると判断された。谷地形の形成時期を明らかにする資料は得られなかったが、地山面の高さは北側周濠底よりも低いため、古墳築造後に土石流が襲い周濠底をえぐり去った可能性がある。 (鐘ヶ江)



図37 郡家車塚古墳（98-1）調査位置図

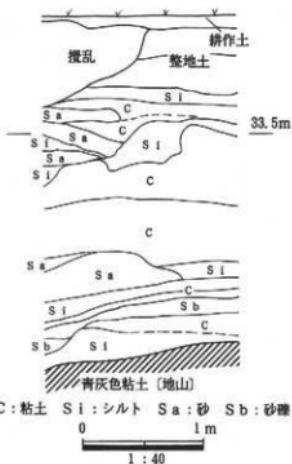


図38 郡家車塚古墳（98-1）土層模式図

## VII 今城塚古墳

### 20. 今城塚古墳（98-1）の調査

高槻市郡家新町659—2番地にあたり史跡今城塚古墳の南に隣接し、西国街道の北側に位置している。調査地の現状は畑で、小字は「石橋」と称する。今回の調査は個人住宅の建築にさきだって実施したものである。届出地の東西に調査区を設定し、重機によって耕作土・整地土等を除去したのち、人力で精査をおこない、遺構・遺物の検出につとめた。

基本的な層序は、耕作土(0.1m)、黄灰色土(整地土: 0.1m)、黄灰色粘質土・黄灰色砂礫〔地山〕である。地山は黄灰色粘質土の部分のみ削平もしくは掘り下げられていた。

調査の結果、現代の廃棄土坑および整地層より瓦片や多量の焼土や炭を検出したのみで、今城塚古墳や今城山城にかかる遺構・遺物は検出されなかつた。西国街道の南側には近・現代に瓦窯が操業されており、付近一帯は瓦製作用の粘土を採取するために大規模な土取りがおこなわれたのち、炭・焼土や不要となった瓦類が投棄されたようである。  
(宮崎)



図39 今城塚古墳（98-1）調査位置図

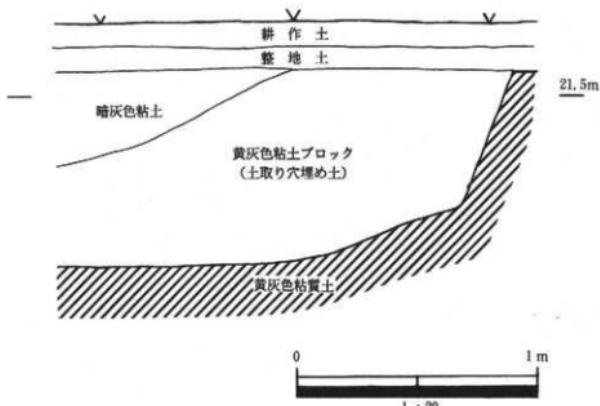


図40 今城塚古墳（98-1）土層模式図

## VIII 津之江南遺跡

### 21. 津之江南遺跡（98-1 地区）の調査

調査地は高槻市津之江北町256にあたり、小字名は「岸之下」と称する。津之江南遺跡の西南部にあって稻荷神社・通称アジャリの森の真南約100mに位置する。現状は田であり、今回個人住宅造成工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。なお、本届出地の隣接地ではほぼ同時期に宅地造成工事に伴う調査を実施したので、本届出地を98-1地区、隣接調査地を98-B地区と表記して併せて報告する。

調査は届出地の中央に調査坑を設定し、重機で排土後人力で掘削して遺構・遺物の精査に努めた。基本層序は、98-1地区及び98-B地区北部では耕土0.2m、床土0.05m、暗褐色土〔遺物包含層〕0.1~0m、黄褐色粘質土〔地山〕である。地山面の標高は10.2~9.7mをはかり、ゆるやかに南東側へ傾斜している。98-B地区南部では床土下に灰褐色砂質土の整地層0.2~0.1mが認められ、暗褐色土〔遺物包含層〕0.1~0.05m、灰褐色砂質土〔地山〕となる。地山面の標高は9.8~9.2mをはかる。

#### 遺構と遺物（巻頭図版、図版第6~11・14、図42）

検出した遺構は、弥生時代の方形周溝墓、奈良~平安時代の掘立柱建物、鎌倉時代の井戸と溝などがある。

方形周溝墓は、98-B地区と合わせて6基検出した。いずれも陸橋部をもつと推定されるもので、南西から北東への方向性を示し、周溝墓2・3は接続しているとみられる。6基とも主体部は検出されなかったが、周溝墓1の北東側で検出した長方形土坑は方向性が似ており、同時期の土坑墓もしくは周溝墓が接続しているのかもしれない。各周溝墓とも、周溝埋土は堅くしまった黒褐色土で、周溝墓3の北西隅で供獻土器（広口壺片・撰津第2-2様式）が出土したものの全体として遺物はごく少ない。時期は周溝墓3が中期前半と考えられ、その他もほぼ同時期とみられる。

この時期の遺物としては、前述の波状口縁をもつ広口壺片及び周溝埋土から前期~中期とみられる土器細片少量のほか、包含層から石製穂摘具(41)と大型蛤刃石斧の基部(42)が出土している。



図41 津之江南遺跡（98-1地区）調査位置図

なお包含層から、先端を欠損した角錐状石器(40)が1点出土している。サヌカイト製で、分厚い横長剝片を調整剝離したものである。当該期の旧石器は、北約1.2kmの郡家川西H地点でまとまって出土しているが、本遺跡では初例となる。

名 称	規 模 (推 定 値) m	周溝幅m	周溝深m	方 向	備 考
周溝墓1	東西(9.2) ×南北 6.8	2.4~1.0	0.8~0.2	N-42°-E	西・南・北周溝検出
周溝墓2	東西( ) ×南北( )	1.0	0.2~0.1	N-40°-E	東周溝検出
周溝墓3	東西(8.4) ×南北(7.2)	2.4~1.0	0.5~0.3	N-40°-E	西・南周溝検出
周溝墓4	東西( ) ×南北(9.2)	2.0	0.5~0.3	N-40°-E	西周溝検出
周溝墓5	東西(8.4) ×南北(8.0)	0.8	0.3~0.1	N-42°-E	南・北周溝検出
周溝墓6	東西( ) ×南北(6.4)	1.4~1.2	0.25	N-45°-E	南・西・北周溝検出

方形周溝墓一覧表

奈良～平安時代については、掘立柱建物3棟・柵列のほか、大形土坑1基、土坑4基のほか、柱穴多数がある。

建物1は、98-1地区中央で検出した。東西2間(柱間2.4m)×南北7間(柱間2.4m)で、西側に半間(柱間1.2m)の庇がつくとみられる。柱通りの方向はN-5°-Eである。柱穴は隅丸長方形で、長辺1.1~0.9m、短辺0.8~0.7m、現存深0.7~1.0mをはかる。東柱列では北から1番目の柱穴に直径42cm(柱根1)、3番目の柱穴に直径38cm(柱根2)の柱根2本が遺存していた。庇の柱穴は径約0.6m、深さ0.2m程度と浅い。柱根を1本検出した。同位置で1度建て替えられているが、当初の建物には庇は付属していなかったと考えられる。なお建物1の中心にあたる位置で、蓋をした広口壺を据えた埋納坑を検出した。時期は9世紀初めとみられ、建物1に伴う地鎮であろう。

建物2・3は98-B地区の西寄りで検出した。いずれも西側は調査区外につづく。建物2は南北3間(柱間2.9m・2.4m・2.9m)×東西1間(柱間2.7m)以上で、東側に1間(柱間2.7m)の庇がつく東西棟と考えられる。柱通りの方向はN-6°-Eである。そのすぐ南側に方向を同じくして建物3がある。東西3間(柱間2.0m)以上、妻柱は見いだせなかつたが南北2間(柱間1.8m)の東西棟とみられる。柱抜き取り跡に完形の須恵器环(2)や土師器片が投入されているものがあり、時期は2棟とも8世紀末～9世紀初めとみられる。

柵列は建物1と重複して検出した。前後関係は不明である。柱間は2.4mで7間以上とみられ、方向はN-6°-Eである。柱穴はおおむね一辺1m、深さ0.2mほどの隅丸方形で、北側から1番目と3番目には礎板がわりに径25cmほどの扁平な河原石を据え、周囲に拳大の河原石を詰めていた。また建物1の北東側及び建物2・3の周辺では、隅丸方形の柱穴を大小多

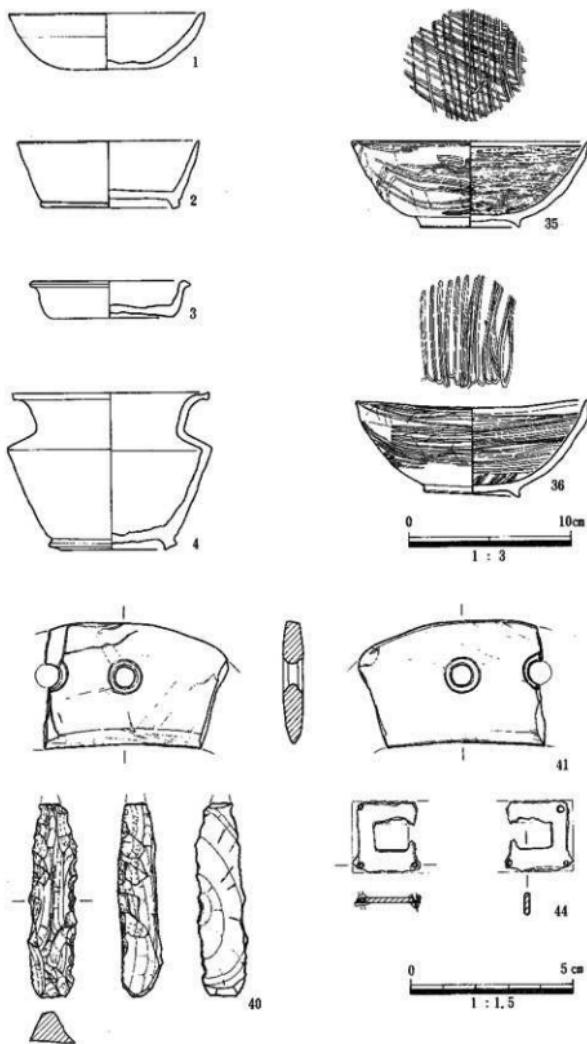


図42 津之江南遺跡 出土遺物実測図 3・4・35・40・44 98-1地区  
1・2・36・41 98-B地区

数検出しているが、建物としてはまとまらなかった。大形土坑は建物3の南側で検出した。南北7m×東西3mの不整な瓢形で、深さ0.2~0.3mをはかる。北半西寄りでは埋土の中程に焼土面があり、野焼き跡の可能性がある。南半では9世紀初めごろの土器器坏が出土している。

土坑は建物2内に1基、大形土坑西側に3基を検出した。いずれも長さ2.0~1.8m、幅0.9~0.8m、深さ0.2m程度の隅丸長方形を呈する。南北方向に横って配置されており、土器類もなんら出土しなかったが、土壤墓の可能性がある。

この時期の遺物としては、大形土坑出土の土器器坏(1)、埋納坑出土の広口壺(3)と蓋(4)をはじめ、环蓋(6)・环身(2・5・7)・壺(8)・鉢(9)・円面鏡(12)、灰釉陶器(10)、綠釉陶器(11)、製塙土器(13~24)、瓦類(25~34)などがある。6は建物1、2は建物3、7~9・11は掘の柱穴から出土した。製塙土器は両地区の柱穴及び包含層から、円面鏡と瓦類はいずれも98-1地区包含層から出土した。蓋とした3は、内面に自然釉がみられることもあり出土状態で固化した。11は綠窯の製品とみられる。また瓦は、いずれも内面に布目痕が顯著にのこる。全形が知られるものはない。44は一方が欠損しコ字形となった帶金具様の銅製品である。四隅に小孔を穿つが腐食が激しく、本来の用途は不明である。建物1東側の小柱穴から出土した。

鎌倉時代の遺構としては建物2棟、井戸3基、溝・小溝・柱穴多数がある。建物・井戸・柱穴は調査区東寄りで、また小溝群は東南側に集中して検出された。建物4は東西2間(4.2m)×南北1間(2.0m)で、柱通りの方向はN-6°-Eである。建物5は南北3間(6.0m)東西2間以上の総柱建物とみられ、柱通りの方向はほぼ磁北と一致する。いずれも98-B地区東~東南側に位置し、切り合い関係から小溝群より後出とみられる。

また98-1地区で多数検出した平面円形の柱穴は、建物としてまとめに至らなかったが、おおむね溝を切っていることが認められ、建物1・2と同時期の所産と考えられる。

井戸は98-1地区で2基、98-B地区で1基検出した。井戸1は98-1地区北端中央に位置する。掘形は1.6m×1mの不整形を呈し、時期は12世紀前半である。井戸2は98-1地区的中央西寄りで検出した。掘形は径1.8mのほぼ円形で、深さ1.1mをはかる。井戸枠は抜き取られていたが、径1.0mとみられる。底近くから瓦器楕(35)が出土している。時期は12世紀前半である。井戸3は98-B地区の建物4のすぐ北東側に位置する。掘形は2.8m×2.2mの隅丸方形で、上方は擂鉢状、下方は円筒形の2段掘りで深さ1.5m、底径1.0mである。井戸枠抜き取り後、一定自然埋没が進んだのちに埋められたようである。底近くから瓦器楕(3637)・羽釜(39)・鍼の身が出土している。時期は12世紀中ごろとみられる。

溝は、直線的にのびる南北溝・東西溝と、東西・南北方向に屈曲、分岐する小溝がある。

98-1 地区では、幅1.0~0.8m・深さ0.2~0.1mの南北溝・東西溝が比較的単純に、4.8~1.8mの間隔をおいてそれぞれほぼ平行してはしつつあるが、98-B 地区はそこへ縦横に小溝がくわわり錯綜する状況を呈している。これらがどう組み合うのかただちに判然としないが、調査区中央部では小溝が櫛歯状に分岐する状況が検出され、それらが畠の畝溝であることを示すとともに、98-1 地区と98-B 地区では当時の土地利用形態がやや異なっていたことをうかがわせる。溝・小溝ともに埋土からは瓦器塚(37)・皿(38)、土師皿の小片などが出土しており、おおむね12世紀代と想定している。

#### 小 結

今回の調査は、津之江南遺跡の西南部では初の本格調査となった。調査の結果、これまで本遺跡では知られていなかった弥生中期の方形周溝墓群や奈良～平安時代の大規模な掘立柱建物群を検出するとともに、中世段階での畠地化と集落の展開を確認することができた。

周溝墓群については、やや散漫ながら、連接して営まれる中期通有の在り方が看取できる。調査が限定的で、後世の削平もあって確認・推認できたのは6基にとどまるが、周辺にはなお複数の存在が推定される。遺跡東部の調査区では前期の壇棺、後期の住居・井戸等を検出しているが、中期の住居等はまだ確認できていない。この周溝墓群の在り方からして、当該期の住居群が相当数存在するのは明らかで、今後周溝墓群のひろがりとともに住居等の所在が課題となろう。

奈良～平安時代の建物群は、本遺跡では初出である。その建物規模、とりわけ長大な建物1は嶋上郡衙中枢域や大原駅跡と推定される梶原南遺跡の検出例に匹敵し、同時期の典型的な集落遺跡である郡家今城遺跡の諸例を凌駕する。くわえて調査範囲内では井戸・土器溜まり等の生活構造は認められず、一般集落よりはむしろ官衙関連構造とみることがふさわしいのではないかと思われる。今回調査地は嶋上郡衙中枢域から真南に約1km隔たっており、郡衙とは別の施設を想定する必要があろうが、この点で「津之江」という地名がまさに「河港」を意味することからして、淀川水系の水上交通にかかわる何らかの拠点的施設である可能性を指摘できる。この津之江地区には、調査地北側の稻荷神社のほか、東方約0.8kmの芥川沿いに筑紫津神社が所在し、河港を仲介とする西方とのつながりを連想させるものがある。今回検出建物の性格はさらに検討しなければならないが、段丘脊稜部にはかかる建物群の存在がなお予想されるところであり、今後の調査が期される。

また中世については、溝群より建物・柱穴群が後出することから、畠地から居住地への移行がうかがえた。98-1・98-B両地区東半を縦横に交錯する溝と小溝は、N-8°~6°-Eの一群とN-3°~0°-Eの一群に分かれ。切り合い関係からおおむね後者が後出とみられるが、検出した瓦器類に大きな隔たりではなく、比較的短い間に直線的な溝による区画一

道路跡の可能性もあるがさらに検討を要するが、小溝による小区画へとて代わられたものと推察される。この小溝は櫛齒状のおさまりから畠の歎溝とみるのが妥当と思われ、前代の宅地がいったんは水田、さらに畠地化し、ふたたび居住地が展開していったことがうかがわれる。時期は12世紀代で、遺跡東方で確認している11世紀後半の建物群に後続するものであろう。

以上、今回の調査結果を概述したが、従来未知であった津之江南遺跡が淀川氾濫源の港津として、弥生時代から古代・中世にかけて継続的に営まれた重要な遺跡であることが判明したといえよう。  
(鐘ヶ江)

〈参考〉高橋公一・宮崎康雄「津之江南遺跡の調査」『高槻市文化財年報 平成9年度』1999年

## IX 宮之川原遺跡

### 22. 宮之川原遺跡（98-1）の調査

調査地は宮之川原五丁目505—7番地あたり、小字は「大明神」である。現状は宅地である。今回の調査は個人住宅建設工事に先立つもので、過去の調査では当該地の東側で落ち込みや土師器・須恵器など奈良～平安時代にかけての遺構・遺物を検出している。

今回は個人住宅建替工事に先立つもので、後述する98-2次調査地の南約50mに位置する。調査はまず重機で調査地内の盛土等を除去したのち、人力で掘り下げて遺構・遺物の検出につとめた。層序は盛土（0.6m）、耕作土（0.25m）、床土（0.05m）、暗褐色土〔包含層〕（0.3m）、淡黄灰色砂〔地山〕であり、地山は北から南にむかって緩やかに下降する。

調査の結果、遺構は検出されず、遺物も包含層から出土した古墳時代の土師器片のみであった。今回の調査では明確な遺構は検出することができなかったものの、良好な状態の包含層が確認できたことから、周辺に遺構が存在する可能性が高い。

（宮崎）



図43 宮之川原遺跡（98-1）調査位置図

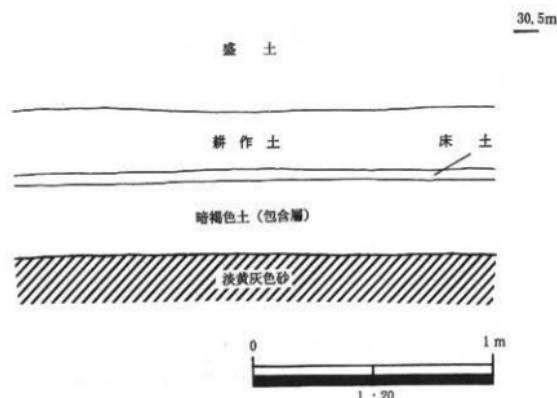


図44 宮之川原遺跡（98-1）土層模式図

### 23. 宮之川原遺跡（98-2）の調査

調査地は高槻市宮之川原五丁目509-4・5番地にあたり、小字は「大明神」である。現状は宅地である。今回の調査は個人住宅建設工事に先立つもので、近隣調査区では古墳時代の竪穴住居跡等を検出している。

調査は届出地の中央に調査区を設定し、重機で盛土を除去したのち、人力で掘削・精査をおこない遺構・遺物の検出に努めた。層序は盛土（0.6m）、耕作土（0.2m）、整地土（0.25m）、暗褐色土〔包含層〕（0.25m）、暗黄灰色土〔地山〕であり、地山は北もしくは北東側から南へむかって緩やかに下降していた。暗褐色土には土師器・須恵器の細片が含まれていたものの遺構は検出されなかった。

今回の調査では明確な遺構やそれに伴う遺物を確認することはできなかったものの、比較的厚い包含層を検出することができた。堆積状況からすれば、周辺地域から流出したもののが再堆積したのである。地山の状態や包含層の堆積状況は、北東側の式内神服神社の方向に何らかの遺構がひろがる可能性を示すと考えられる。  
（宮崎）



▼ ▼ ▼

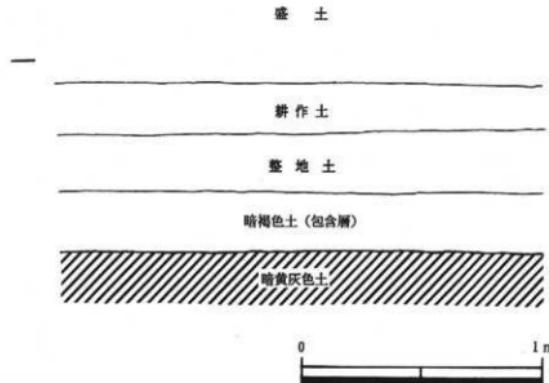


図46 宮之川原遺跡（98-2）土層模式図

## X 芥川遺跡

### 24. 芥川遺跡(98-1)の調査

調査地は高槻市真上町一丁目60-1・5番地にあたり、小字名を「宮田」と称する。現状は宅地である。今回の調査は個人住宅建設に先立って実施した。

届出地内に調査区を設定し、重機で盛土等を除去したのち、人力による掘削および精査をおこなった。基本的な層序は、盛土(0.25m)、床土(0.2m)、橙色土混白灰色粘質土(0.4~0.5m)、濃灰色粘質土(0.3~0.4m)、青灰色粘質土〔地山〕である。地山面の標高はおおむね13.9mである。

今回の調査では遺構は検出されなかったが、地山直上より芥川遺跡の最盛期である弥生時代後期後半の甕片が少量(図版第12 b 1~3)出土しており、今後この周辺において遺構が検出される可能性は高いと考えられる。  
(難波)



図47 芥川遺跡(98-1) 調査位置図

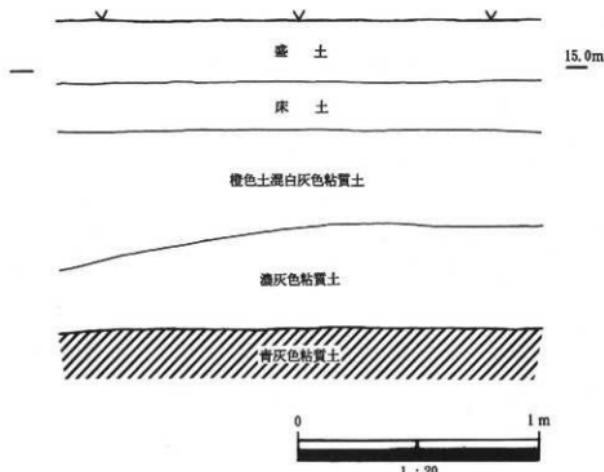


図48 芥川遺跡(98-1) 土層模式図

## XI 高槻城跡

### 25. 高槻城跡（98-1）の調査

調査地は、高槻市野見町1244-1番地にあたり、小字名は「条路山」と称する。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設工事が計画されたため発掘調査を実施した。今回の調査地は、高槻城跡西部の出丸にあたるが、これまでこの周辺での調査は比較的少ないとおり、出丸の実態について詳しく把握していないのが現状である。

調査は届出地中央部に調査区を設定し、重機で盛土を除去したのち、人力で掘削、

精査をおこなった。層序は盛土（0.5m）、褐色土（0.2m）の下層は木の葉や小枝などを含む青灰色粘土が1m以上堆積し、遺構・遺物はまったく検出されなかった。  
(橋本)



図49 高槻城跡（98-1）調査位置図

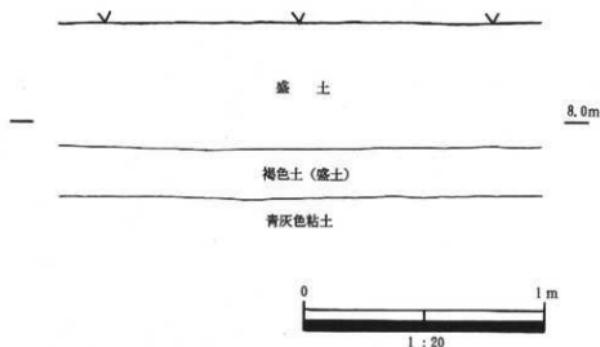


図50 高槻城跡（98-1）土層模式図

## 26. 高槻城跡（98-2）の調査

近世高槻城は明治7年に取りこわされ、現在では地名・道路などの町割りで全体像を窺うことができるのみである。このたび、個人住宅建設工事が計画されたため事前に発掘調査を実施した。調査地は高槻市出丸町1233-4番地他にあたり、小字名を「衆路山」と称する。現状は宅地である。当該地は、17世紀中頃の高槻城絵図によると出丸を画する外堀付近に位置していることから、絵図に描かれた出丸に関連する遺構の発見が期待された。

調査は届け出地内にトレンチを設定して、重機で掘り下げた後、人力で精査した。

層序は盛土(0.8m)、茶褐色土(0.6m)、暗黄褐色粘土(ブロック状)(0.4m)、暗灰褐色粘土(0.2m)、暗青褐色粘土(0.2m)、暗黄褐色砂礫〔地山〕であった。地山面の標高は6.0mを測る。

今回の調査では、出丸および外堀に関連する遺構・遺物は検出できなかった。

(木曾)

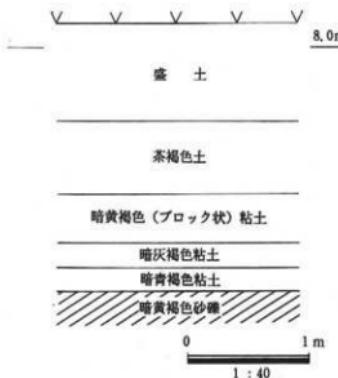


図52 高槻城跡（98-2）土層模式図

## 27. 高槻城跡（98-3）の調査

調査地は、高槻市出丸町1247番にあたり、小字名は「糸路山」と称する。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設工事が計画されたため発掘調査を実施した。今回の調査地は、高槻城跡西部の出丸にあたる。

調査は届出地中央部に調査区を設定し、重機で盛土を除去したのち、人力で掘削・精査をおこなった。層序は盛土(0.2m)・整地土(0.7m)の下層に灰色砂質粘土(0.6m)、灰色砂(0.1m)と堆積し、下層に青灰色粘土が厚く堆積していた。遺構・遺物はまったく検出されなかったが、灰色砂質粘土は17世紀前半に造成された出丸の地盤に相当するものとみられる。

（橋本）

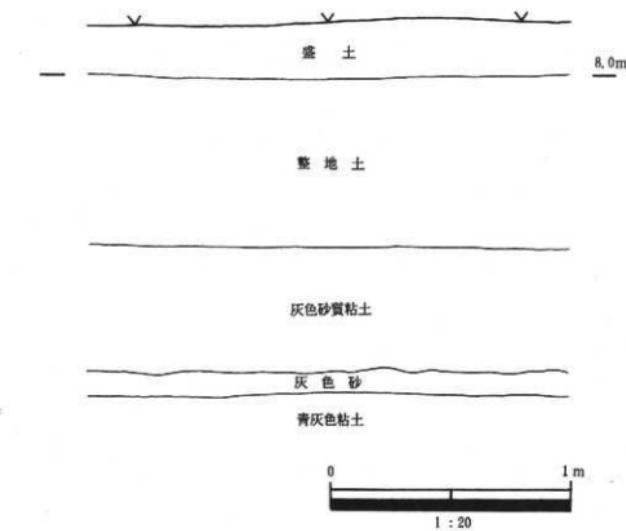


図54 高槻城跡（98-3）土層模式図

## 28. 高槻城跡（98-4）の調査

調査地は高槻市出丸町992-53番地にあたり、小字名を「帶曲輪」と称する。現状は宅地である。今回の調査は個人住宅建設に先立って実施した。

届出地内に調査区を設定し、重機で盛土等を除去したのち、人力による掘削および精査をおこなった。基本的な層序は表土（0.8m）、盛土（1.3m）、橙褐色土混薄褐色土〔整地土〕である。整地土は厚さ0.8mまで掘り下げたが、さらに下位へ続く。

この整地土は本調査地の南側でおこなった97-3次調査で確認されており、今回一定の広がりをつかむことができた。

17世紀中頃の絵図によると、本調査地は高槻城の帯郭、または藏屋敷にあたると考えられるが、今回の調査ではこれらに関連する遺構・遺物は確認されなかった。  
（難波）



褐色土（表土）



橙褐色土混青灰色粘質土（盛土）



黒灰色砂質土（盛土）



橙褐色土混薄褐色土（整地土）



図56 高槻城跡（98-4）土層模式図

## 29. 高槻城跡（98-5）の調査

調査地は、高槻市出丸町992-52番地にあたり、小字名は「帶曲輪」と称する。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設工事が計画されたため発掘調査を実施した。今回の調査地は、高槻城跡西南部の帯郭と藏屋敷の境目にあたる。

調査は届出地中央部に調査区を設定し、重機で盛土を除去したのち、人力で掘削・精査をおこなった。層序は盛土(0.2m)・整地土(0.45m)、耕作土(0.2m)、黄灰色粘土(0.8m)、黄灰色砂質土と堆積していた。遺構・遺物がまったく検出されなかったため、帯郭・藏屋敷の地盤がどの層に相当するのか確認することができなかった。  
(橋本)



図57 高槻城跡（98-5）調査位置図

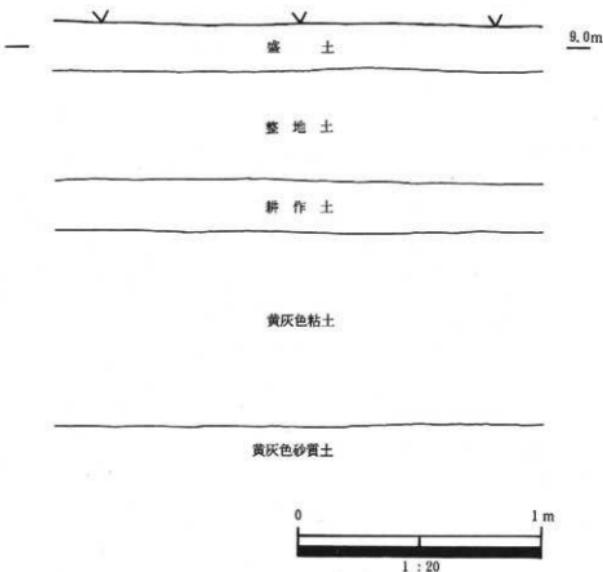


図58 高槻城跡（98-5）土層模式図

### 30. 高槻城跡（98-6）の調査

高槻市出丸町992-51番地にあたり、小字は「帶曲輪」である。調査地は近世高槻城の蔵屋敷にあたり、17世紀中頃に描かれた絵図によれば本丸をとりまく細長い郭となっていた場所である。

調査はまず重機で表土等を除去したのち、人力での精査により遺構・遺物の検出につとめ、層序の観察をおこなった。

基本的な層序は表土(0.1m)、暗黄褐色土(整地土:0.2m)、暗灰色土(0.2m)、暗黄

灰色土となり、同層が1.5m以上続く。暗灰色土が近世の表土層、以下が地山と考えられる。

調査の結果、遺構・遺物は検出されなかった。周辺には蔵が建ち並んでいたとされるが、今回の調査では礎石や柱穴等それらがうかがえる遺構はみられなかった。逆に遺物がまったく出土しなかったのは一帯が江戸時代を通じて生活の場ではなかったからであろう。

(宮崎)



図59 高槻城跡（98-6）調査位置図

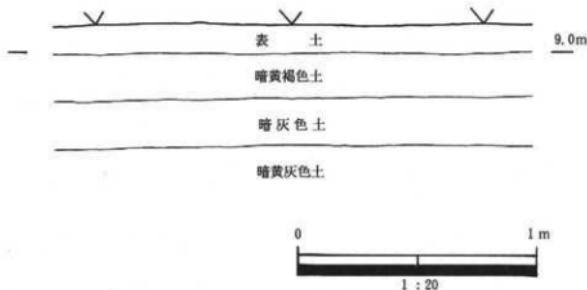


図60 高槻城跡（98-6）土層模式図

## XII 神内遺跡

### 31. 神内遺跡（98-1）の調査

神内遺跡は高槻市東部に広がる古代から中世の集落である。一帯は淀川と北摂山地に挟まれた狭隘な平野部となっており、周辺には内ヶ池・牛池・丸池など淀川の河跡湖やかつて池沼が存在したことを示す地名がみられる。また、西方には平安時代の山陽道を踏襲した西国街道が山裾に沿って南北にのびる。当遺跡は調査例が少なく、遺跡の性格を語るほどの資料は蓄積されていない。過去に実施した調査では奈良・平安時代の土器類や中世の石鍋などが出土しており、古代から中世にかけての集落が展開すると考えられている。

今回の調査は個人住宅建替工事に先立つものである。調査地は高槻市上牧北駅前町1218-136番地にあたり、小字名は「友次」である。調査は既存建物の解体作業などもあり、反転しながらおこなった。まず調査地内の盛土等を重機で除去した後、人力で遺構・遺物の検出および層序の観察に努めた。

基本的な層序は盛土(1.0m)、耕作土(0.2m)、暗黃灰色砂質土(0.7m)、暗青灰色砂質土である。暗青灰色砂質土は均質に厚く堆積しており、地山にあたると考えられる。遺跡の外縁部に位置するためか、遺構・遺物はなんら検出することはできなかった。

(宮崎)



図61 神内遺跡（98-1）調査位置図



図62 神内遺跡（98-1）土層模式図

### XIII 今城塚古墳規模確認調査（第2次）

今城塚古墳は、淀川北岸地域で最大の前方後円墳である。発達した前方部を西側に向け、二重の濠を巡らし、6世紀前半に築かれたとみられ、昭和33年に国史跡に指定されている。

平成9年に国庫補助事業として第1次規模確認調査を実施し、後円部の規模や内濠の底の形状などの重要な知見が得られる一方、墳丘を切り崩し、城砦として再構築している状況がはじめて明らかになった。この城砦は巨大なブロック土で内濠を埋め立てた様子から、戦国時代末期に築かれたとみられ、「今城山城（いまきやまじょう）」と命名された。

今回、平成10年度国庫補助事業（総額4,000,000円）として、第1次規模確認調査に引き続き、後円部北側の内濠の規模・形状の把握、および「今城山城」の様子や築造の方法を知るために、発掘調査を実施した。基本的な層序は、耕作土(0.2m)、埋積土(1.8m)、堆積土(1.0m)である。

#### 遺構・遺物

今城塚古墳の内濠の底を検出し、後円部側と内堤側の裾のたちあがりを確認することができた。内濠底の幅は18.5m、深さは現地表面から約3mを測る。後円部側および内堤側斜面には葺石がみられ、人頭大からやや大きめの石を斜面に掘っていた。内堤側は幅約1.5mの範囲で良好に検出できたが、後円部側は現位置をとどめていないものが多い。

内濠底の後円部寄りでは、幅0.4m、深さ0.2mの溝を検出した。後円部の裾に沿って掘られ、後円部斜面の流出土とみられる灰色粘質土で埋まっていた。

堆積土からは、円筒埴輪片の他、ドングリや倒木などが多量に出土した。また石棺の破片とみられるピンク色の阿蘇溶結凝灰岩も出土しており、さらに濠底付近では木製の掛矢や、用途不明の木製品も出土した。

調査区北端に位置する内堤斜面中腹付近では、円筒埴輪片が出土した。これらの埴輪片は、堆積土である灰色砂層の上面で検出した。

今城山城に関しては墳丘から切り出した巨大な土の塊（埋積土）によって、内濠を埋めて



いた状況が明らかになった。一辺2mから大きいもので5mを越える巨大なブロック土をひとつ単位として、内濠の内堤側（外側）から先に落とし込み、順次後円部方向（内側）へ埋めていったとみられる。ブロック土は、0.4m×0.1mの小土塊で構成される。埋積土から、16世紀の瀬戸焼の天目茶碗が出土している。また、第1次調査で検出した障子堀は、今回の調査では確認できなかった。

一方、これまで後円部墳丘の名残であるとされてきた土塁や堀切の斜面の下層にも埋積土の存在が確認された。内濠の埋め立てと同様に、墳丘から切り出した巨大なブロック土によって、土塁や堀切が形成されていることになる。

#### 小 結

今回の調査では今城塚古墳の後円部堀のたちあがりが検出されたことで、第1次調査の成果と合わせて後円部の直径はおよそ90~92mと推定できるようになった。また、内濠底の幅が18.5mで、後円部側に位置する第1次調査の20mを下回っており、古墳各部における内堤の形状に差があるものと推測できる。

一方、内濠底で検出した溝は、形状や規模等から第1次調査で検出した溝に連なるものとみられる。この溝は古墳築造時に掘削され、作業中の排水溝として機能していたと考えられていたが、今回溝の延長部分を検出したことにより、こうした排水溝が、墳丘北側の内濠底を巡っている可能性が高くなった。

今城山城については前方後円墳を城砦に改修するため、墳丘から切り出した巨大なブロック土によって、内濠を内堤側から順次規則的に埋めていた。第1次調査では、墳丘側から埋めていた状況がみられたが、内濠を埋めるに際してそれぞれの部分で、現場に即応した手順が採られたとみられる。また、第1次調査で検出した障子堀は、今回の調査では確認できなかった。第1次調査地点と、今回の調査地点では郭としての機能が異なっていた可能性もある。

一方、これまで古墳の北半部で墳丘の名残とみされていた凹凸は、実は築城時に墳丘から切り出され動かされたもので、むしろ城砦構築に伴う残余の土塊であることが判明した。

以上、内濠を巨大なブロック土で埋めるという一連の作業が追認されたことにより、築城工事の実態が推定してきた以上に大規模かつ計画的であったと考えられるようになった。このような大土木工事を伴う築城の主体者として、永禄11（1568）年に摂津へ侵攻し、三好勢を一掃した織田信長を想定していたが、今回の調査でもそうした推測を支持できる資料が蓄積されたといえる。

（高橋）

## XIV まとめ

今年度は鳩上郡衙跡で8件、その他周辺の11遺跡で23件、合計31件の調査を実施した。

鳩上郡衙跡の調査は周縁部分の小規模な調査が中心となっているため、郡衙や寺院に直接関わるような遺構・遺物は検出できなかった。

中城遺跡は富田台地上に広がる弥生時代～中世の遺跡として知られ、近年では約6,000枚の埋納錢が一括出土している。今年度は明確な遺構・遺物などを確認するには至らなかつたものの、周辺には富田遺跡、総持寺遺跡などの大規模な集落が点在することから、地域の歴史の解明にむけても中城遺跡の占める位置はますます重要となろう。

郡家今城遺跡では、従前の調査とあわせて遺跡北東側への集落のひろがりを確認することができた。遺跡南～西部については山陽道と集落の様相が一定把握されつつあるなか、東部の状況について今後の調査が期されるところである。

津之江南遺跡の調査では、はじめて弥生時代中期の方形周溝墓群と、律令期の大規模な建物を確認した。一般集落と様相を異にするそれら建物群は、津之江南遺跡を淀川水運との関りの中で官衙関連遺跡としてとらえる必要性を示している。同遺跡ではこれまで遺跡東半部で旧石器時代から中世にかけての遺構・遺物を多数検出しているが、今回の調査により本遺跡が長時間にわたり継続的に営まれた重要な遺跡であることが浮き彫りになったといえ、今後の調査の進展が待たれる。

高槻城跡で実施した調査では、近世高槻城の堀を検出した。これまでに地割りや道路の位置関係から外堀や内堀のおおまかな位置は判明しているものの、堀の幅や深さ、形状など発掘調査によらなければ解明できない点も数多い。遺構規模からすれば限定的な調査にならざるを得なかつたが、近世城郭の解明にむけては今後とも小規模な調査の蓄積がますます重要になってくるであろう。

また、本書掲載外の重要な成果として、高槻城三の丸跡でのキリストン墓地の調査がある。市松状に整然と配置された木棺墓群29基を検出、うち1基に二支十字が墨書きされており、キリストン大名で知られる高山右近在城当時のものと推定される。調査概要は『平成10年度・高槻市文化財年報』に掲載を予定している。

なお十字墨書きの木棺は、文化庁主催「'99 発掘された日本列島展」への出品が予定されている。

(宮崎)



抄  
録

フリガナ	シマガミイセキグン
書名	嶋上遺跡群
副書名	
巻次	23
シリーズ名	高槻市文化財調査概要
シリーズ番号	25
編集者名	橋本久和 鮎ヶ江一朗 宮崎康雄 高橋公一 浅井まりも 木曾 広 麻波紀子
編集機関	高槻市立埋蔵文化財調査センター
所在地	大阪府高槻市南平台五丁目21-1
発行年月日	1999年3月

フリガナ 所収遺跡名	シマガミイセキ 嶋上郡衙 21-D地区				
フリガナ 所在地	シマガミイセキ 大阪府高槻市郡家本町521-1, 522-1				
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	34° 50' 59"	135° 36' 01"	19980713	9.0 m <sup>2</sup>	工場建設工事
27207 39					
所収遺跡名 種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
嶋上郡衙 官衙	奈良・平安				

フリガナ 所収遺跡名	シマガミイセキ 嶋上郡衙 28-C・G地区				
フリガナ 所在地	シマガミイセキ 大阪府高槻市清福寺町839・840・1484				
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	34° 51' 00"	135° 36' 28"	19981104 ～ 19981113	10.0 m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 39					
所収遺跡名 種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
嶋上郡衙 官衙	奈良・平安		土師器・須恵器		

フリガナ 所収遺跡名	シマガミイセキ 嶋上郡衙 28-L地区				
フリガナ 所在地	シマガミイセキ 大阪府高槻市清福寺町829-5				
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	34° 50' 58"	135° 36' 31"	19980831 ～ 19980907	10.0 m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 39					
所収遺跡名 種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
嶋上郡衙 官衙	奈良・平安				

フリガナ 所収遺跡名	河原ヶ原 岬上郡衙 48-B 地区				
フリガナ 所 在 地	村内力 カニシ カニシヨウ 大阪府高槻市川西町1丁目956-12				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 36"	135° 36' 28"	19980706	4.0 m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 39					
所収遺跡名 種別	時 代	主な遺構	主な遺物	特 記 事 項	
岬上郡衙 官衙	奈良・平安				

フリガナ 所収遺跡名	河原ヶ原 岬上郡衙 54-E 地区				
フリガナ 所 在 地	村内力 カニシ カニシヨウ 大阪府高槻市郡家新町350-7				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 48"	135° 36' 10"	19981022	4.0 m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 39					
所収遺跡名 種別	時 代	主な遺構	主な遺物	特 記 事 項	
岬上郡衙 官衙	奈良・平安				

フリガナ 所収遺跡名	河原ヶ原 岬上郡衙 74-C 地区				
フリガナ 所 在 地	村内力 カニシ カニシヨウ 大阪府高槻市郡家新町156-4				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 42"	135° 36' 13"	19981214 ~ 19981228	16.0 m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 39					
所収遺跡名 種別	時 代	主な遺構	主な遺物	特 記 事 項	
岬上郡衙 官衙	奈良・平安				

フリガナ 所収遺跡名	河原ヶ原 岬上郡衙 74-G 地区				
フリガナ 所 在 地	村内力 カニシ カニシヨウ 大阪府高槻市郡家新町156-37				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 42"	135° 36' 13"	19980615	8.0 m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 39					
所収遺跡名 種別	時 代	主な遺構	主な遺物	特 記 事 項	
岬上郡衙 官衙	奈良・平安				

フリガナ 所収遺跡名	アボミケ <sup>アボミケ</sup> 岬上郡衙 95-E地区				
フリガナ 所 在 地	村内 <sup>カタシキ</sup> カタシキ <sup>カタシキ</sup> イマロウチ <sup>イマロウチ</sup> 大阪府高槻市今城町187-17				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 35"	135° 36' 15"	19981106 ~ 19981110	8.0 m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 39					
所収遺跡名 種別	時 代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
岬上郡衙 官衙	奈良・平安				

フリガナ 所収遺跡名	八畠 <sup>ハシタ</sup> 土室(98-1)				
フリガナ 所 在 地	村内 <sup>カタシキ</sup> カタシキ <sup>カタシキ</sup> ハシタ <sup>ハシタ</sup> 大阪府高槻市八畠六丁目131-49				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 42"	135° 34' 49"	19990108	8.0 m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 5					
所収遺跡名 種別	時 代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
土 室 集落	古 墳				

フリガナ 所収遺跡名	チケン <sup>チケン</sup> 中城(98-1)				
フリガナ 所 在 地	村内 <sup>カタシキ</sup> カタシキ <sup>カタシキ</sup> チケン <sup>チケン</sup> 大阪府高槻市昭和台町二丁目135				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 49' 31"	135° 35' 26"	19980626	9.0 m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 47					
所収遺跡名 種別	時 代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
中 城 集落	中 世				

フリガナ 所収遺跡名	チケン <sup>チケン</sup> 中城(98-2)				
フリガナ 所 在 地	村内 <sup>カタシキ</sup> カタシキ <sup>カタシキ</sup> チケン <sup>チケン</sup> 大阪府高槻市昭和台町二丁目128				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 49' 31"	135° 35' 23"	19980722	9.0 m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 47					
所収遺跡名 種別	時 代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
中 城 集落	中 世				

フリガナ 所収遺跡名	中城(98-3)				
フリガナ 所 在 地	大坂府高槻市昭和町二丁目156-2				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 49' 28"	135° 35' 23"	19980824 19980828	9.0 m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
所収遺跡名	種別	時 代	主な 遺 構	主な 遺 物	特 記 事 項
中 城	集落	中 世			

フリガナ 所収遺跡名	中城(98-4)				
フリガナ 所 在 地	大坂府高槻市昭和町二丁目122-2				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 49' 31"	135° 35' 26"	19981102	9.0 m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
所収遺跡名	種別	時 代	主な 遺 構	主な 遺 物	特 記 事 項
中 城	集落	中 世			

フリガナ 所収遺跡名	中城(98-5)				
フリガナ 所 在 地	大坂府高槻市昭和町二丁目122-1				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 49' 31"	135° 35' 26"	19981111 ~ 19981118	9.0 m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
所収遺跡名	種別	時 代	主な 遺 構	主な 遺 物	特 記 事 項
中 城	集落	中 世			

フリガナ 所収遺跡名	水室塚(98-1)				
フリガナ 所 在 地	大坂府高槻市水室町二丁目587-6				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 48"	135° 35' 37"	19990118 ~ 19990121	5.0 m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
所収遺跡名	種別	時 代	主な 遺 構	主な 遺 物	特 記 事 項
水室塚古墳	古墳	古 墳			

フリガナ 所収遺跡名	ケツイイゾロ 郡家今城 (98-1)				
フリガナ 所 在 地	村井アカシイシイチヤク 大阪府高槻市郡家新町141-1				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 27207 42	34° 50' 39"	135° 36' 05"	19980701 ~ 19980710	65.0m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
所収遺跡名	種別	時 代	主な 遺 構	主な 遺 物	特 記 事 項
郡家今城	集落	奈良・平安	掘立柱建物	土師器・須恵器	

フリガナ 所収遺跡名	ケツイイゾロ 郡家今城 (98-2)				
フリガナ 所 在 地	村井アカシイシイチヤク 大阪府高槻市水室町一丁目781-21				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 27207 42	34° 50' 33"	135° 35' 53"	19981012 ~ 19981023	9.0m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
所収遺跡名	種別	時 代	主な 遺 構	主な 遺 物	特 記 事 項
郡家今城	集落	奈良・平安			

フリガナ 所収遺跡名	ケツイイゾロ 郡家今城 (98-3)				
フリガナ 所 在 地	村井アカシイシイチヤク 大阪府高槻市水室町一丁目769-13				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 27207 42	34° 50' 37"	135° 35' 51"	19990111 ~ 19990114	9.0 m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
所収遺跡名	種別	時 代	主な 遺 構	主な 遺 物	特 記 事 項
郡家今城	集落	奈良・平安			

フリガナ 所収遺跡名	ケツイイゾロ 郡家車塙古墳 (98-1)				
フリガナ 所 在 地	村井アカシイシイチヤク 大阪府高槻市岡本町790				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 27207 34	34° 51' 04"	135° 35' 52"	19980916 ~ 19980930	20.0m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
所収遺跡名	種別	時 代	主な 遺 構	主な 遺 物	特 記 事 項
郡家車塙 古 墳	古墳	古 墳			

フリガナ 所収遺跡名	イモロカツヅク 今城塚古墳 (98-1)				
フリガナ 所 在 地	村井町 カタシキ クンザシマチ 大阪府高槻市郡家新町1659- 2				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	35° 50' 44"	135° 35' 53"	19980601 ~ 19980602	59m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 40					
所収遺跡名	種別	時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項
今城塚古墳	古 墓	古 墓	土 坑	近代瓦	

フリガナ 所収遺跡名	ツノイハラ 津之江南 (98-1)				
フリガナ 所 在 地	村井町 カタシキ ツノイハラ 大阪府高槻市津之江北町256				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 18"	135° 36' 26"	19980713 ~ 19980817	240.0m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 43					
所収遺跡名	種別	時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項
津之江南	集落	弥生～中世	方形周溝墓・掘立柱建	弥生土器・土師器・須 物・溝	

フリガナ 所収遺跡名	ミヤシロ 宮之川原 (98-1)				
フリガナ 所 在 地	村井町 カタシキ ミヤシロ 大阪府高槻市宮之川原五丁目505- 7				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 51' 44"	135° 36' 05"	19980511	9.0 m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 57					
所収遺跡名	種別	時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項
宮之川原	集落	古 墓			

フリガナ 所収遺跡名	ミヤシロ 宮之川原 (98-2)				
フリガナ 所 在 地	村井町 カタシキ ミヤシロ 大阪府高槻市宮之川原五丁目509- 4・5				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 51' 43"	135° 36' 05"	19980622	9.0 m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 57					
所収遺跡名	種別	時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項
宮之川原	集落	古 墓			

フリガナ 所取遺跡名	カタカナ 芥川(98-1)				
フリガナ 所 在 地	カタカナ 大坂府高槻市真上町一丁目60-1・5				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 51' 06"	135° 36' 52"	19980626	9.0 m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 74					
所取遺跡名	種別	時 代	主な遺構	主な遺物	特記事項
芥川	集落	弥生		弥生土器	

フリガナ 所取遺跡名	カタカナ 高槻城(98-1)				
フリガナ 所 在 地	カタカナ 大坂府高槻市野見町1244-1				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 26"	135° 37' 18"	19980724	4.0 m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 85					
所取遺跡名	種別	時 代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高槻城	城跡	中世・近世			

フリガナ 所取遺跡名	カタカナ 高槻城(98-2)				
フリガナ 所 在 地	カタカナ 大坂府高槻市出丸町1233-4・6				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 19"	135° 37' 21"	19980810 ~ 19980818	4.0 m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 85					
所取遺跡名	種別	時 代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高槻城	城跡	中世・近世			

フリガナ 所取遺跡名	カタカナ 高槻城(98-3)				
フリガナ 所 在 地	カタカナ 大坂府高槻市出丸町1247				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 25"	135° 37' 19"	19980820 ~ 19980821	4.0 m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
27207 85					
所取遺跡名	種別	時 代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高槻城	城跡	中世・近世			

フリガナ 所収遺跡名	カツキヨウ 高槻城(98-4)				
フリガナ 所 在 地	カツキヨウ 大阪府高槻市出丸町992-53				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 20"	135° 37' 21"	19980908 ~ 19980914	8.0 m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
所収遺跡名 種別	時 代	主な遺構	主な遺物	特 記 事 項	
高槻城 城跡	中世・近世				

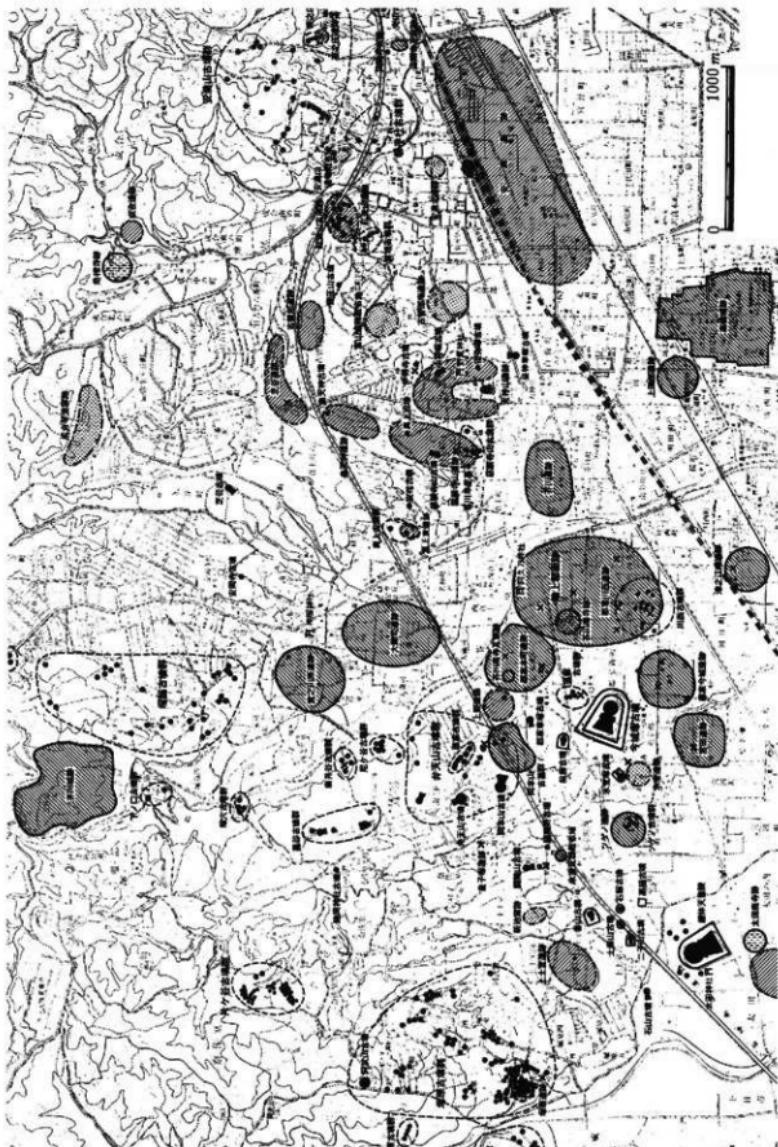
フリガナ 所収遺跡名	カツキヨウ 高槻城(98-5)				
フリガナ 所 在 地	カツキヨウ 大阪府高槻市出丸町992-52				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 20"	135° 37' 21"	19981026 ~ 19981030	8.0 m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
所収遺跡名 種別	時 代	主な遺構	主な遺物	特 記 事 項	
高槻城 城跡	中世・近世				

フリガナ 所収遺跡名	カツキヨウ 高槻城(98-6)				
フリガナ 所 在 地	カツキヨウ 大阪府高槻市出丸町992-51				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 20"	135° 37' 21"	19981125 ~ 19981130	8.0 m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
所収遺跡名 種別	時 代	主な遺構	主な遺物	特 記 事 項	
高槻城 城跡	中世・近世				

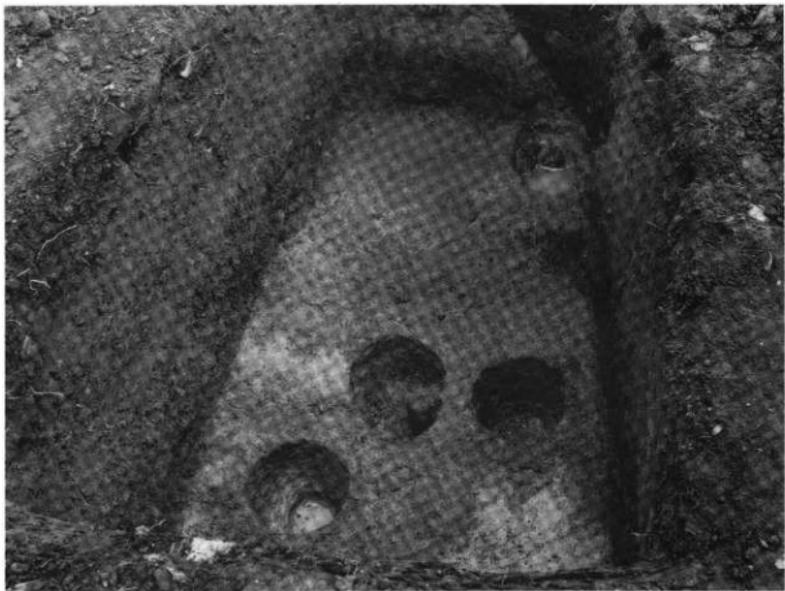
フリガナ 所収遺跡名	カツ 神内(98-1)				
フリガナ 所 在 地	カツ 大阪府高槻市上牧北紫前町1218-136				
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 52' 00"	135° 39' 42"	19981119 ~ 19981211	20.0 m <sup>2</sup>	個人住宅 建設工事
所収遺跡名 種別	時 代	主な遺構	主な遺物	特 記 事 項	
神 内 集落	奈良・平安・ 中世				

# 図 版

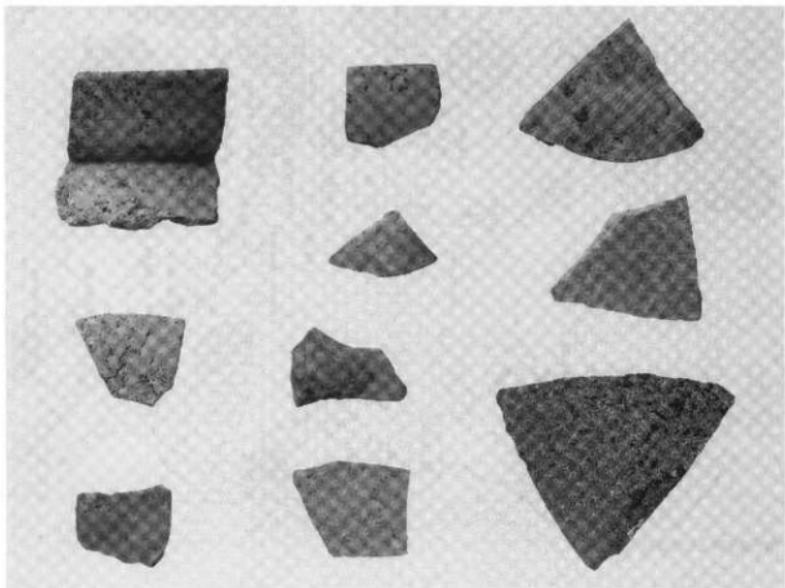




岡上郡街跡とその周辺

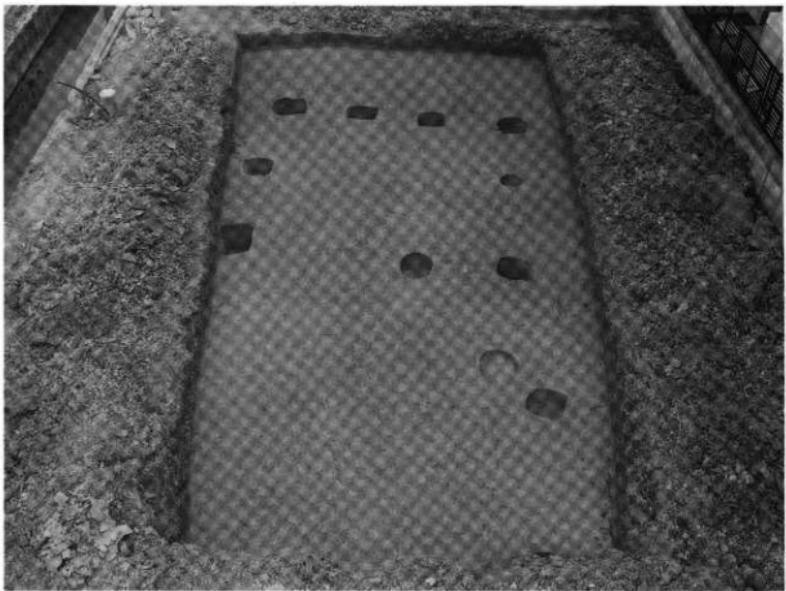


a. 岐上郡街跡 (28-C・G地区) 全景 (南側から)

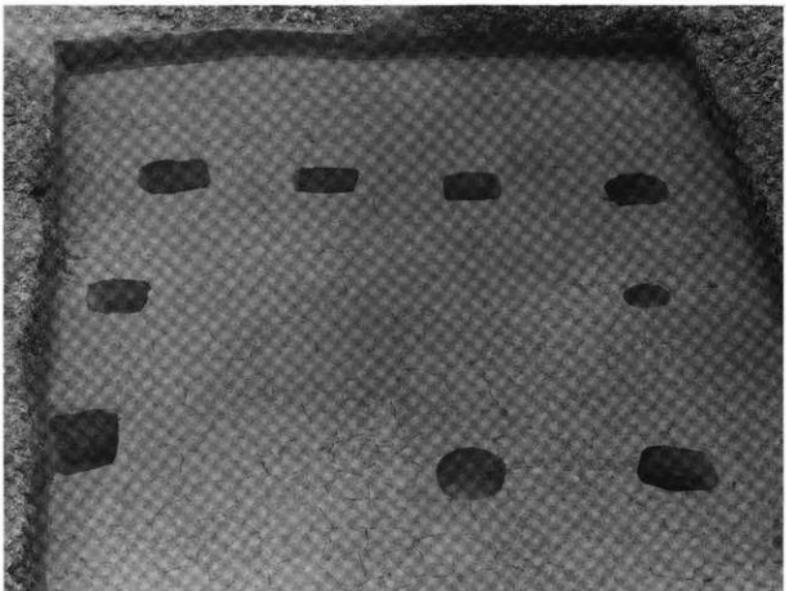


b. 岐上郡街跡 (28-C・G地区) 出土遺物

約1/2



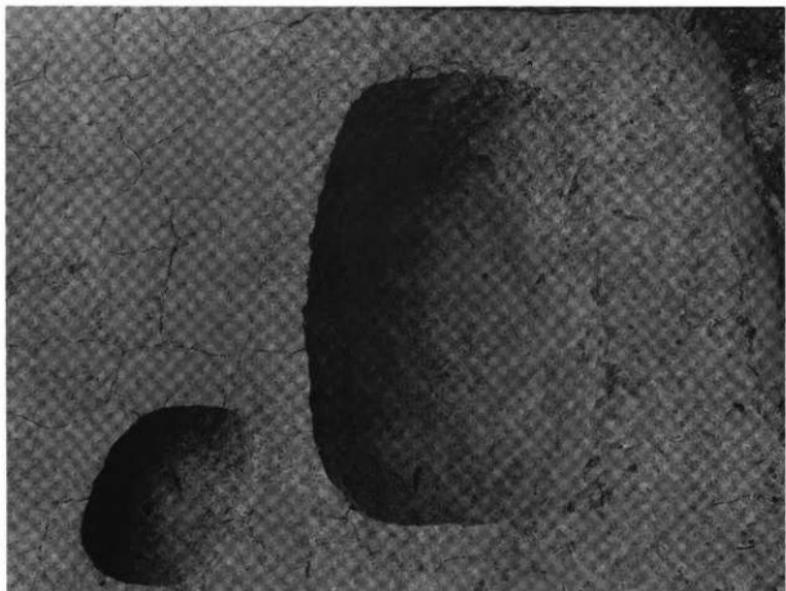
a. 郡家今城遺跡（98-1） 北半部（南側から）



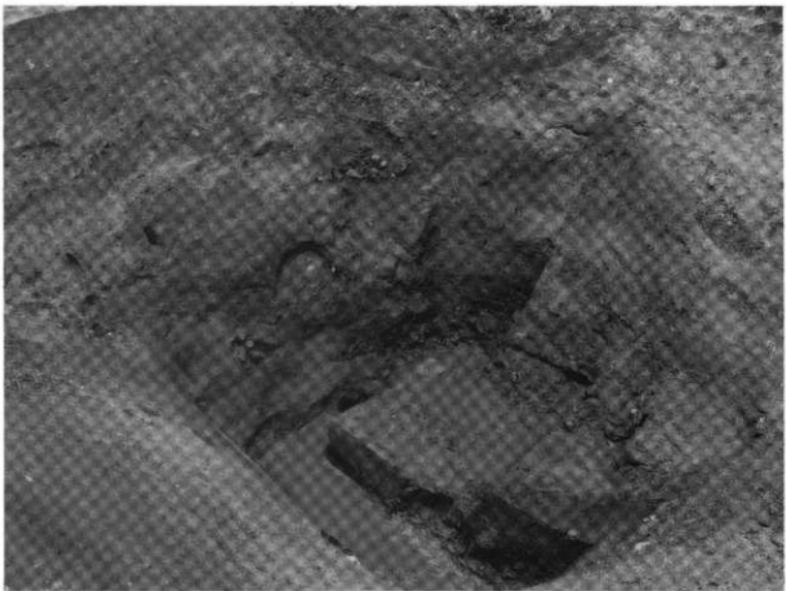
b. 郡家今城遺跡（98-1） 建物6（南側から）



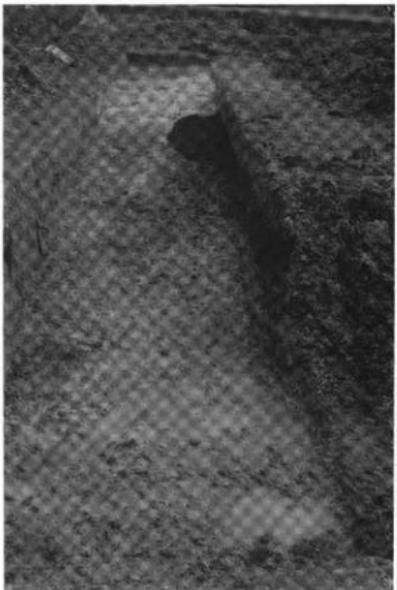
a. 郡家今城遺跡（98-1） 南半部（北側から）



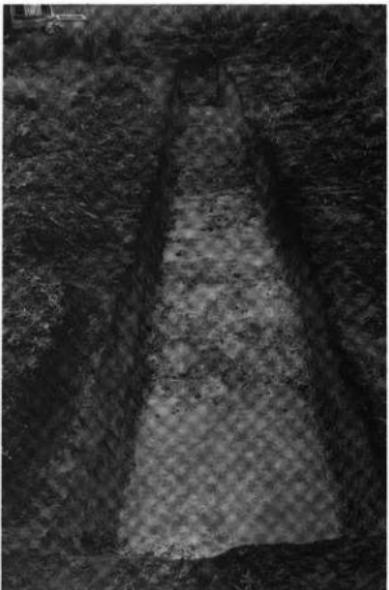
b. 郡家今城遺跡（98-1） 土坑4（南側から）



a. 郡家車塚古墳(98-1) 全景(北東側から)



b. 今城塚古墳(98-1)



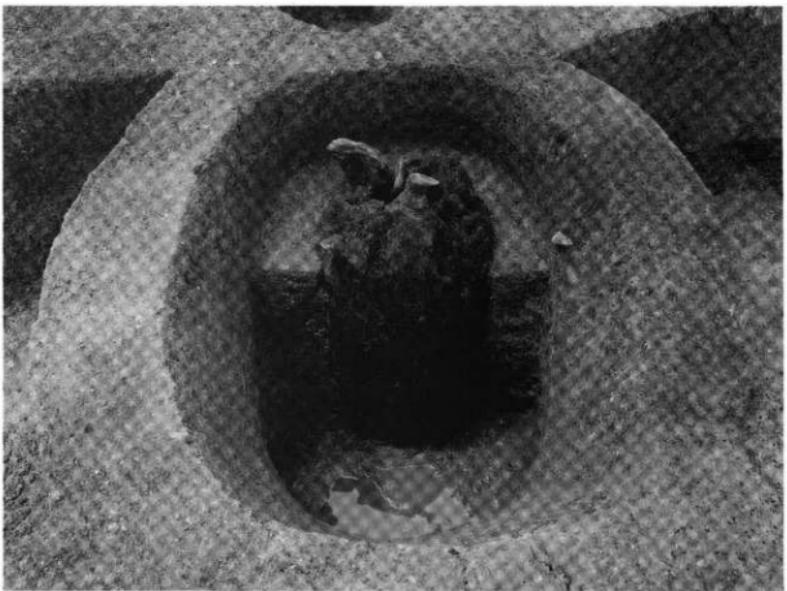
c. 今城塚古墳(98-1)



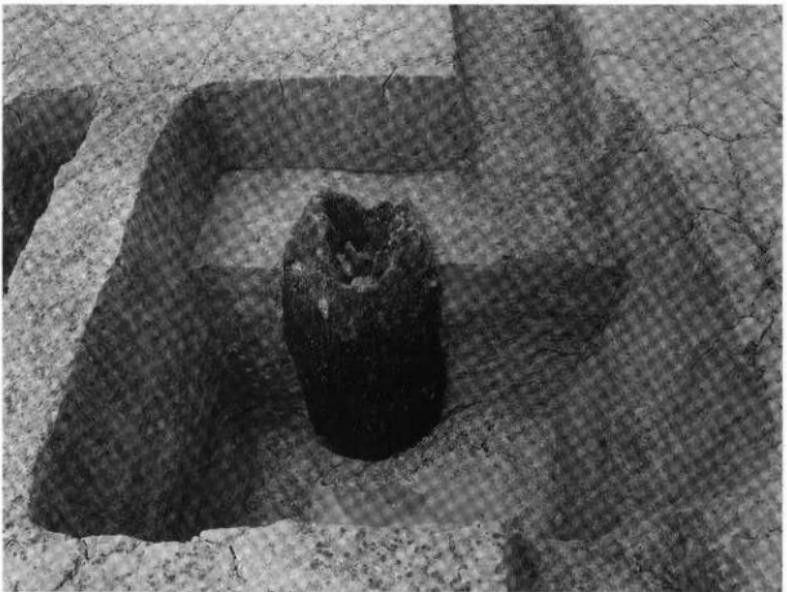
a. 洋之江南遺跡（98-1地区） 全景（南側から）



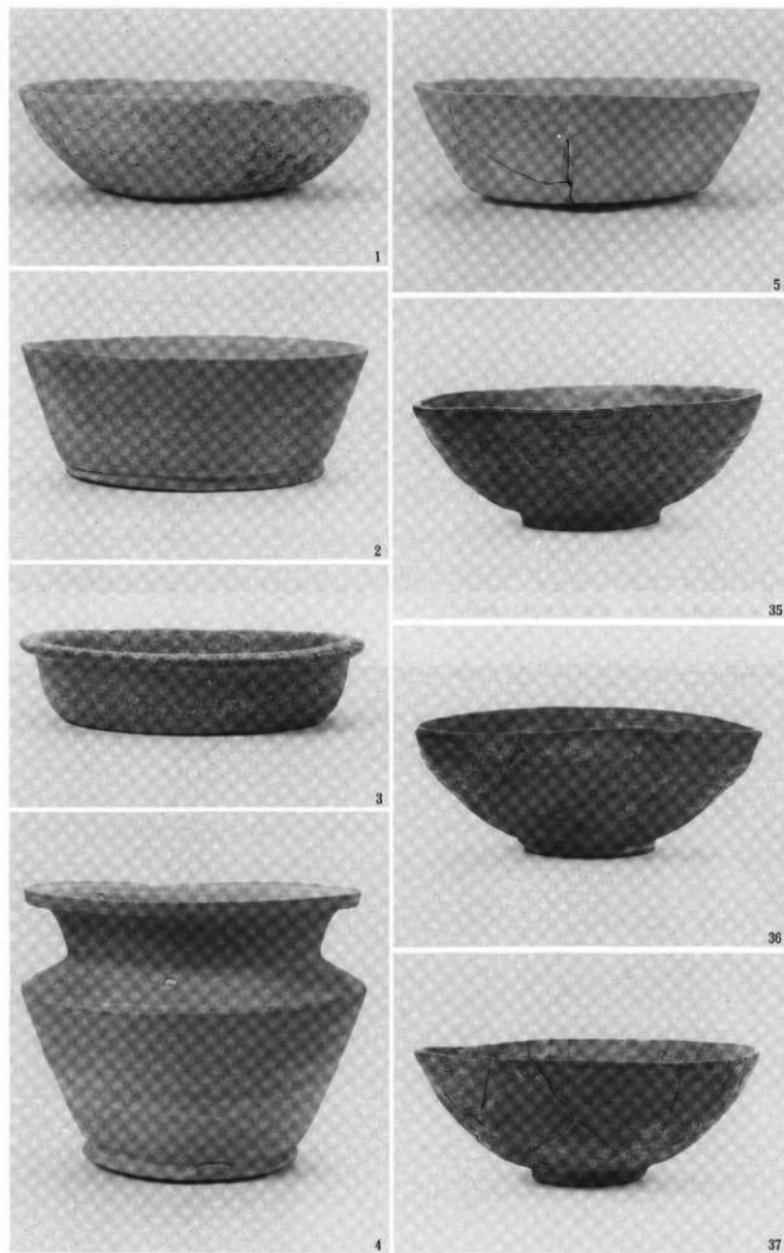
b. 洋之江南遺跡 建物1（北側から）



a. 津之江南遺跡 建物1 柱根1出土状況（東側から）



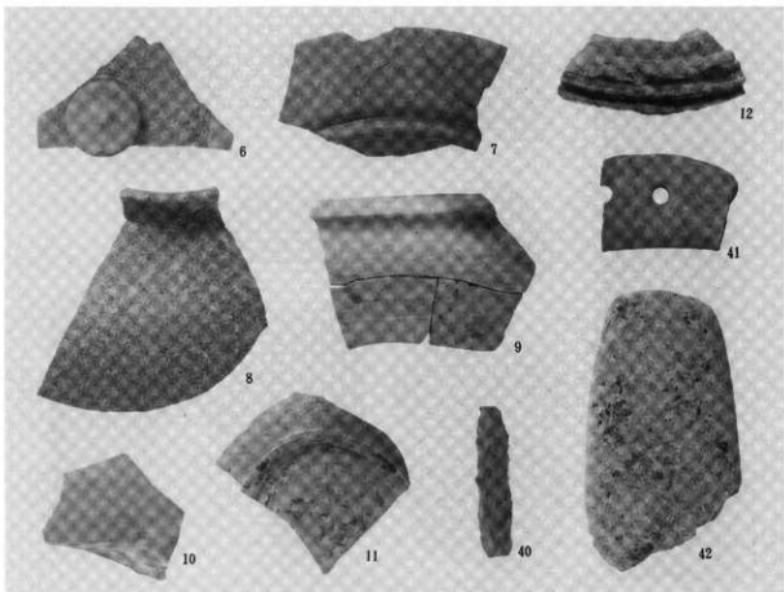
b. 津之江南遺跡 建物1 柱根2出土状況（東側から）



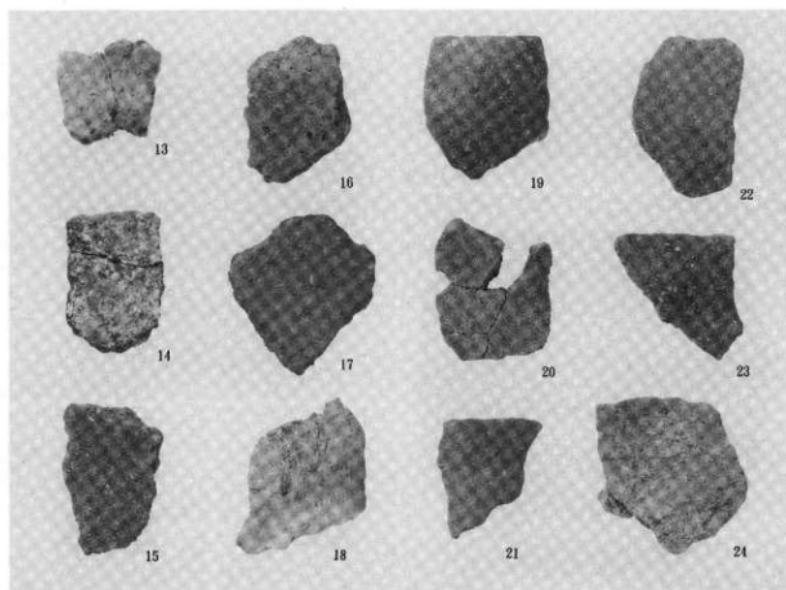
津之江南遺跡 出土遺物 98-1 地区 (3・4・35)  
98-B 地区 (1・2・5・36・37)



a. 津之江南遺跡 出土遺物 98-B 地区 (38・39) 98-1 地区 (44)

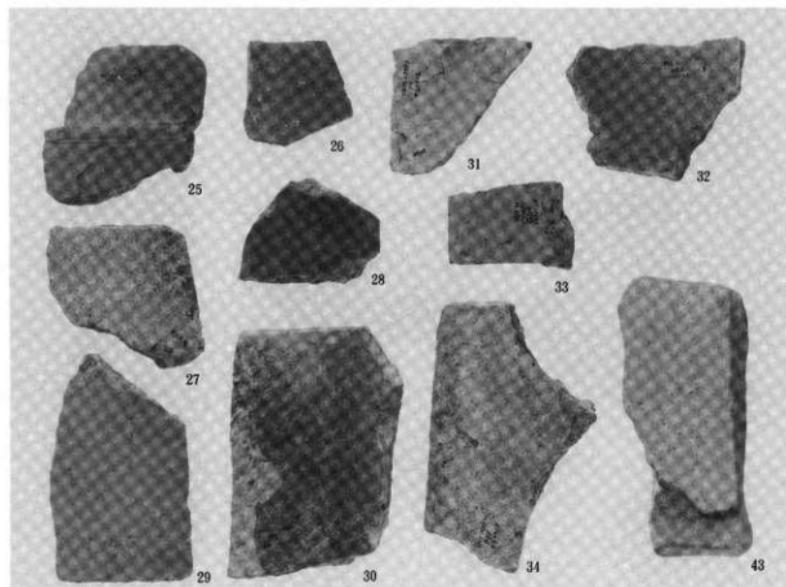


b. 津之江南遺跡 出土遺物 98-1 地区 須恵器 (6~11) 石器 (40~42)



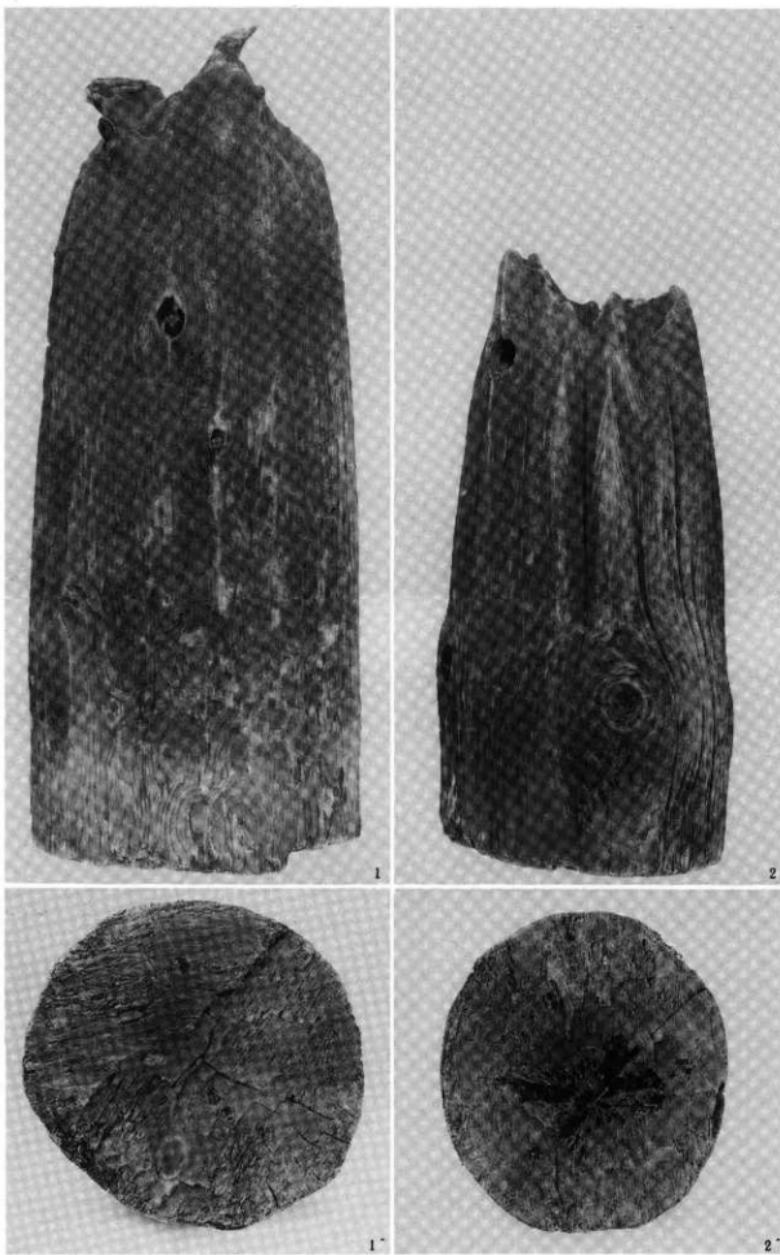
a. 津之江南遺跡出土 製塙土器 98-1 地区 (13~18) 98-B 地区 (19~24)

約 1/2



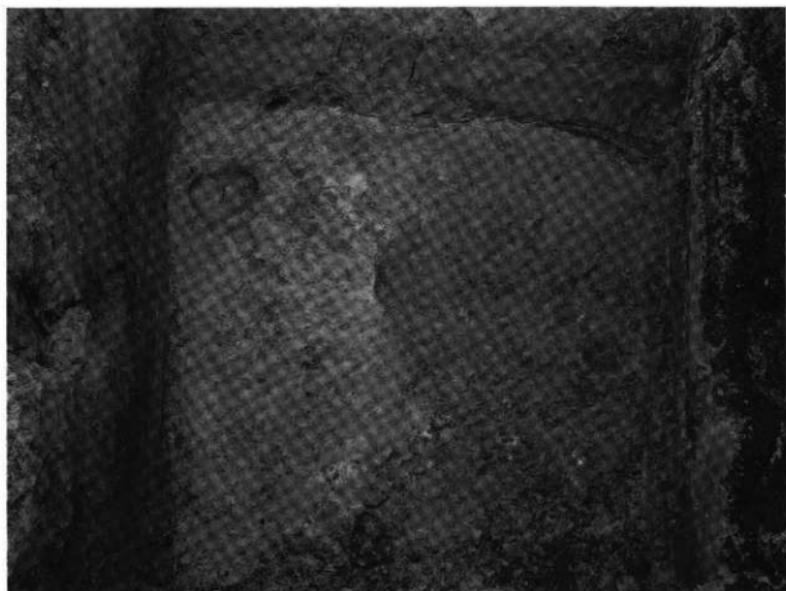
b. 津之江南遺跡出土 瓦類・砥石 98-1 地区 丸瓦 (25~30) 平瓦 (31~43) 砥石 (43)

約 1/2



津之江南遺跡 建物1出土 柱根(1・2)

約1/6



a. 芥川遺跡(98-1) 全景(南側から)



b. 芥川遺跡(98-1) 出土遺物

約1/2